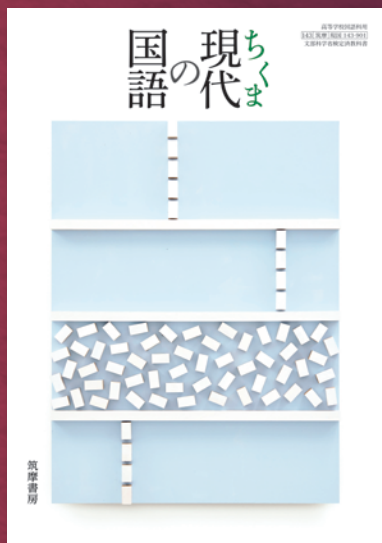


「現代の国語」「言語文化」の内容は、
こちらのパンフレットにまとめました。

筑摩書房版

国語教科書

のご案内



現国 143-901 ちくま 現代の国語



現国 143-902 現代の国語 改訂版



言文 143-901 ちくま 言語文化



言文 143-902 言語文化 改訂版

目次

- ◎ 筑摩書房の国語教科書 2
- ◎ ちくま 現代の国語 8
- ◎ ちくま 言語文化 30
- ◎ 現代の国語 改訂版 52
- ◎ 言語文化 改訂版 72
- ◎ 入試出題状況一覧 92
- ◎ 指導資料 教材一覧 94

内容解説資料

令和九年度用

27

筑摩書房の国語教科書

編集委員のことば



東京大学名誉教授 安藤 宏

二〇一八年に改訂された学習指導要領で、必修教科目は「現代の国語」と「言語文化」に、選択科目は「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」に分かれました。このうち「現代の国語」と「論理国語」は論理的・実用的な文章を扱い、「言語文化」は古典作品と文学作品、「文学国語」は文学教材を扱うことになっています。これまでの国語とは大きく異なる区分けであったため、現在、教育現場ではさまざまな工夫と努力を強いられているのが現状と言えるでしょう。

情報化社会の中で「実用国語」化への動きが急速に進む中、現在の指導要領はあきらかにこうした流れに沿って作成されています。世にある文章を「論理」「実用」「文学」の三つに区分して科目に分けるという発想も、まさしくこれに深く関連するものと言えます。しかしわれわれ筑摩書房の編集委員会は、「役に立つ」という概念をもっと根本的な所から捉え直したいと考えています。世界の成り立ちを根源から問い返し、異質な世界や他者への想像力を育んでいく「人文知」は「国語」という教科の礎をなすものです。こうした発

想に立ち、「現代の国語」と「言語文化」の二つの科目はともに「人文知」を土台に、相互に有機的なつながりをもって編集され、これまで培われてきた理念とあらたな時代への要請とが、高い次元でミックスされています。情報化社会の中でこそ、功利的なものの方に惑わされることなく、個々の情報の持つ意味を慎重に吟味し、批評していく力が求められるわけで、われわれは教材の選定や編集に当たって、まず何よりもこうした奥深い知性を養成していくことを目標に掲げました。われわれの編集方針にご賛同を頂ければ幸いです。

学習指導要領と筑摩書房の教科書

①すべての教科において「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・生徒の主体性を引き出し、知的好奇心を刺激する教材を厳選しました。
- ・「学習の手引き」には、生徒の主体性を引き出したり、対話によって考えを深めたりすることができると配しました。
- ・単元ごとに「実践」を設け、主体的・対話的で深い学びを導く工夫を示しています。
- ・さまざまな角度からの比べ読み教材を掲載して、深い学びへと誘います。

②「思考力・判断力・表現力等」と「知識・技能」から成る「資質・能力」の育成が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・収録された教材と、学習指導要領に示された「思考力・判断力・表現力」および「知識・技能」の項目との関係が一目でわかる一覧表を掲載しました。
- ・すべての単元に扉を設け、それぞれの単元で、どのような「資質・能力」を身につけたいかを示す「単元の目標」を掲示しました。
- ・各教材の冒頭に「視点」を設け、教材のどのような点に着目して学びたいかを示しました。

「この教科書で育成する資質・能力」

資質・能力	言語文化	現代の国語	古典探究	文学国語	論理国語
思考力・判断力・表現力等	○「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める」科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。	○「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する」科目。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域。	○「読むこと」の教材は「古文」 ○「漢文および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。	○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	○「書くこと」「読むこと」の2領域。
知識・技能	○「読むこと」の教材は「古文」 ○「漢文および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。	○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	○「書くこと」「読むこと」の2領域。

言語文化	現代の国語	古典探究	文学国語	論理国語
<p>○「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める」科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。</p> <p>○「読むこと」の教材は「古文」 ○「漢文および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。</p>	<p>○「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する」科目。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域。</p> <p>○「読むこと」の教材は「近代の社会生活に必要なとされる論理的な文章および実用的な文章」。</p>	<p>○「読むこと」の教材は「古文」 ○「漢文および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。</p>	<p>○「書くこと」「読むこと」の2領域。</p> <p>○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。</p>	<p>○「書くこと」「読むこと」の2領域。</p> <p>○「読むこと」の教材は「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章」。</p>

※このほか「国語表現」（他者とのコミュニケーションの側面を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視して新設した選択科目）があります。

筑摩書房の「現代の国語」 2つのラインナップ

編集委員のこぼれ



日本大学名誉教授 紅野謙介

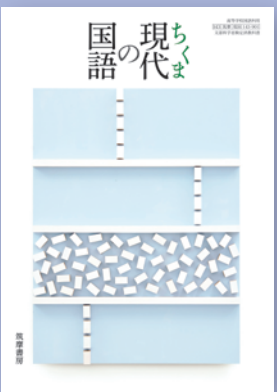
いま私たちの周囲では、ときに言葉が踊って、地に足がなくなってしまうことがある。「Society5.0」や「グローバルイズム」といった言葉はその典型だ。意味は分かるが、それがいったいどういうことかを見きわめ、生きた言葉にすることはむずかしい。「主体性」を口にしながら、まったく主体的でない。「多様性」を唱えながら、実際には画一的で平均的になることを求めている。それが私たちの直面している社会である。こうした言葉はしばしばその内容についてじっくり考えることより、符牒のように言い交わすことばかりが目になる。論理や実用もそうした符牒になっていないか、たえず問いなおす必要がある。重要なことは正確に読みとるだけでなく、言葉が交わされる現実の場面について理解や想像を働かせることである。話す力、聞く力

を身につけることは、言葉を言葉としてだけでなく、話し手の背景や文脈について考え、聞き手のふるまい方を学ぶことだ。さまざまな媒体を使いこなして発信することは、書くことを通じて自身の考えをより明確にすると同時に、言葉の制約や限界を知ることにもなるだろう。実際、自分の思いをうまく言葉にできず、もどかしく感じることがしばしばある。それほど言葉はとて不自由で、びたりと表すことができない。しかし、同時に同じその言葉を組み合わせることによって閉ざされた世界がさっと広がり、光が射すこともある。その力が身についたら、私たちはもっと生きやすく、困難をくぐりぬけることができるとはならないだろうか。

これまでの『現代の国語』をもとに、高校の先生方のご意見ご要望により応えるべく、見直しと洗練とを加えた最善の改良バージョンである。『ちくま 現代の国語』は、評価の高い評論やエッセイとともに、あえて小説を組み合わせた構成にしてある。「話す・聞く」、「読む」「書く」力をさらに総合的に高めていくためには、フィクションの文章を素材として取り込むことが必要だからだ。物語（ナラティブ）について考えることは「現代」を生きる上で不可欠になっている。かくして各教材をつなぎ合わせ、教材からさらに広がる言葉のネットワークをたどっていけば、論理的思考力と他者への想像力、表現力を鍛え上げていくことができるはずだ。未来に向けた新しい言葉のロードマップとして、ぜひ、ご利用いただきたい。

「ちくま 現代の国語」の特徴

- ◎「羅生門」「良識派」「待ち伏せ」「夢十夜」の4本の小説の論理的・実用的な側面に焦点を当てて、教材化しました。小説と、主張の鮮明な評論教材とを組み合わせることによって、幅広い論理的・実用的な思考力・判断力・表現力を養うことができます。
- ◎さまざまなテーマやジャンルの教材を横断し、また比較して学ぶことで、より深い探究に導きます。
- ◎基礎的な読解力を養う文章から、現代的なトピックを扱った作品まで、バラエティに富んだ教材を厳選しました。



「現代の国語 改訂版」の特徴

- ◎メッセージ性が鮮明な評論を豊富に掲載しました。さまざまなテーマについて、広い視野から論じた評論教材を用いて、論理的・実用的な思考力・判断力・表現力を高めることができます。
- ◎大学入試を意識したトピックや筆者を精選し、質・量ともに充実した評論教材を揃えました。
- ◎長く読み継がれてきた名評論から、今を生きる高校生に触れさせたい新しいテーマの評論に至るまで、高校生の知的好奇心を刺激する文章を厳選しました。



ちくま 現代の国語

現代の国語 改訂版

筑摩書房の「言語文化」 2つのラインナップ

編集委員のことば



青山学院大学教授 高田 祐彦

二〇一八年改訂の学習指導要領においても、教材を深く読み込むことが国語の力を育てる核になるという筑摩が一貫して堅持してきた考えのもと、教材本位の教科書作りをした。幸いにも現場にも十分な理解を持って受け止められてきた。しかしながら、今回の学習指導要領における現代の論説・評論と文学とを分けるという奇妙な基準が、国語の教科書全般に及ぼした歪みは、作成する側にも使用する側にも無用の混乱を招いたことは否定できない。

この度、新刊として刊行した『ちくま 言語文化』では、この「言語文化」という科目が本来目指すべき、古典から近代を変化と連

続との二つの相のもとトータルに捉える、という本質的な面を重視して、教材の差し替えを行った。

古文は、さまざまなジャンルの教材によって古典の世界の豊かさを味わうとともに、文学史的な確かな把握ができるように、また、漢文は、親しみやすい教材を多くとりあげ、日本の言語文化にとつて重要な漢文の世界を身近に感じられるようにした。いずれも、長く支持を受けてきた定番教材と単元構成を十分に生かしながら編成して、生徒が古典のことばとじっくり向きあうところから新たな世界が開けるよう、工夫をしてある。

また、現代文は、非本質的な区分の制約を

受けることなく、真に古典から近代に至る言語文化の流れが捉えられるよう、また多種多様な言語文化の実相を把握できるような教材を揃えた。さらに、古典と近代以降とを統一的な視野に収められるよう、日本語の変遷や教材間の連絡にも配慮してある。

もとより従来版の『言語文化』の改訂版である『言語文化 改訂版』においても、古典から近代以降への一貫した言語文化の流れを追求する姿勢は貫かれている。いずれの版においても、教科書作りの姿勢は変わらないので、どちらをお選びいただいても、安心して使っていただけの教科書になっているはずである。

「ちくま 言語文化」の特徴

◎日本の「言語文化」を、古文・漢文から近現代まで一貫して学べるように工夫し、とりわけ言葉の変化に注目できる教材を選定しました。

◎古典教材（古文・漢文）は定番教材を中心に据え、古典を学ぶうえでの基本を重視しました。

◎現代文教材は、近代における先人たちの努力と工夫を実感できる教材を取りそろえ、言語文化への関心を高めることができるようにしました。



「言語文化 改訂版」の特徴

◎日本の「言語文化」を、古文・漢文から近現代まで一貫して学べるように工夫し、とりわけ文学作品を通して、表現の共通点と相違点を具体的に理解できる教材を選定しました。

◎古典（古文・漢文）は、定番教材を中心に据え、古典を学ぶうえでの基本を重視しました。

◎現代文は、「羅生門」などの小説や、詩歌・随想などバラエティ豊かに掲載し、現代に至るまでの日本の「言語文化」の豊かさを実感できるようにしました。



ちくま 言語文化

改訂版 言語文化

現代の国語

◎近現代小説と評論の組み合わせによって、「論理的」「実用的」な表現とはどのようなものか、学ぶことができます。

ちくま現代の国語 編集委員

- 安藤 宏 東京大学名誉教授
- 井島正博 東京大学名誉教授
- 大橋賢一 北海道教育大学旭川校教授
- 門屋 敦 東大寺学園中・高等学校教諭
- 紅野謙介 日本大学名誉教授
- 河野龍也 東京大学准教授
- 五味淵典嗣 早稲田大学教授
- 清水良典 文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授
- 関口隆一 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
- 高田祐彦 青山学院大学教授
- 橘 直弥 灘中学校・高等学校教諭
- 千野浩一 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
- 服部徹也 東洋大学准教授
- 松田顕子 立教新座中学校・高等学校教諭
- 三上英司 山形大学教授
- 吉田 光 郁文館中学校・高等学校教諭
- 吉田幹生 成蹊大学教授

教材の特徴

- ①10単元28教材の充実のラインナップ。
- ②教材1本の分量は大学入試を意識した文字数に(15000字〜40000字程度)。
- ③原則として各単元内の教材配列は易↓難へ。
- ④最近注目の著者や話題から、現代文の基礎として知っておきたい著者やテーマまで、バラエティに富んだ教材をセレクト。
- ⑤「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域ではその本質を深く掘り下げ、定番教材も含めた小説作品4本も素材の一つとして取りあげました。

授業を支える工夫

- ①学びの見通しを立てるために役立つ「単元目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ②教材ごとに学びを深める「課題」と「言語活動」を提示。
- ③比べ読みの練習に、「参考」の文章を適宜掲載。
- ④評論読解に必要な知識をコンパクトにまとめたコラムを随時掲載。
- ⑤実用的な知識や資質・能力を身に着ける「実践」をすべての単元の末尾に掲載。

「書く」領域の授業例(第2章)

ことばとは何か

「ことばとは何か」(内田樹)

「ことばとは何か」は、世界を切り分けるものである、という言語論の基本を伝える評論。ことばを用いて「書く」とは、あなたが見ている世界を「分節化」ということなのだ、ということに意識を向けさせます。

内田 樹

「ことばとは何か」は、世界を切り分けるものである、という言語論の基本を伝える評論。ことばを用いて「書く」とは、あなたが見ている世界を「分節化」ということなのだ、ということに意識を向けさせます。

境目

「境目」(川上弘美)

「境目」は「差異」を生み出す。差異は「楽」なことばばかりではない。でも、「楽」必ずしも「楽しからず」。ことばを用いて「書く」ことの難しさと楽しさに気付かせます。

川上弘美

「境目」は「差異」を生み出す。差異は「楽」なことばばかりではない。でも、「楽」必ずしも「楽しからず」。ことばを用いて「書く」ことの難しさと楽しさに気付かせます。

羅生門

「羅生門」(芥川龍之介)

「ことばとは何か」「境目」2本の評論を受けて、「分節化」「差異」がせめぎあう具体的な場面を考えます。「盗人になる」「餓死する」かの境界線上にいる「下人」は、「老婆」の言葉によってどのように境界線を引き直すのか。状況を生き活きと描写する小説の手法から、表現の技術を学びつつ、ことばを用いて「書く」ことのダイナミクスを実感します。

芥川龍之介

「羅生門」は、世界を切り分けるものである、という言語論の基本を伝える評論。ことばを用いて「書く」とは、あなたが見ている世界を「分節化」ということなのだ、ということに意識を向けさせます。

◎ 教材数は充実の28本。
◎ 章にまとめた教材は互いに有機的に結びついて
います。
◎ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のアイコンで、
どの領域の「資質・能力を養うのに適した教材かが一目瞭然

おさえておきたい定番評論。



第2章

ことばは世界をつくる

- 新 言語論 ことばとは何か 内田 樹……………30
- 定番 境界論 境目 川上弘美……………37
- 定番 近代小説 羅生門 芥川龍之介……………43
- 実践 ことばの境界を意識しよう……………56
- ※「論理」が生まれる場……………58



「話す・聞く」領域の単元も領域の参考となる教材をしっかりと提示。

第3章

主張を読み取る

- 情報論 デジタル社会 黒崎政男……………60
- 定番 文化論 開かれた文化 岡 真理……………66



単元の理解を深める小説と評論の組み合わせ。

生命論

システムと変異 中屋敷 均……………74

実践 評論文の一節を引用し、自分の意見を述べよう……………80

※評論読解のポイント……………82

第4章

自分のことばで伝える

- 定番 ジェンダー論 ことばがつくる女と男 中村桃子……………86
- 社会論 誰かの靴を履いてみることに ブレイデイみかこ……………93
- 贈与論 贈り物と商品の違い 松村圭一郎……………102
- 実践 メモ・ノートの取り方・活かし方を学ぼう……………111
- ※要約作成のポイント……………113



第5章

話し合いから議論へ

- 定番 デモクラシー 〈私〉時代のデモクラシー 宇野重規……………116
- 寓話 良識派 安部公房……………124
- 新 環境論 人新世における人間 吉川浩満……………127
- 実践 「議論する力」を育てよう……………136
- ※読書案内……………138

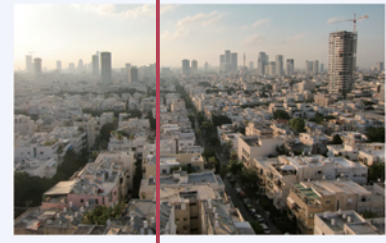
現代文読解に必要な知識・技能を詳しいコラムで丁寧に解説。



現代小説の論理的・実用的側面に着目。



グラフや表の読みとりに最適な教材。



第6章

前提を疑う

- 定番 芸術論 失われた両腕 清岡卓行……………140
- 定番 科学技術論 魔術化する科学技術 若林幹夫……………146
- 定番 経済論 マルジャナーナの知恵 岩井克人……………153
- 「参考」 ナイチンゲールが作成した統計図表 金井一薫……………159
- 実践 議論の前提を意識化しよう……………162
- ※グラフ その歴史……………164

第7章

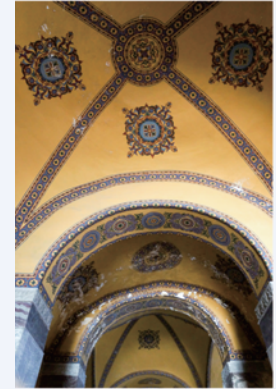
受け止めること、伝えること

- 当事者論 記憶する体 伊藤亜紗……………166
- 忘却への抵抗 新井 卓……………175
- 待ち伏せ ティム・オブライエン／村上春樹訳……………181
- 「参考」 ジャッジのあり方 尹 雄大……………189
- 実践 インタビューの作法……………191
- ※聞き手としての責任……………194

第8章

深層を探ることば

- 新 近代論 「幸福」の概念的変容 隠岐さや香……………196



第9章

情報と社会

- 定番 身体論 身体、この遠きもの 鷺田清一……………204
- 定番 近代小説 夢十夜 夏目漱石……………213
- 実践 ことばをつないで文章を書いてみよう……………225

「実践」の参考や、教材同士の比べ読みに適した「参考」教材。



第10章

主張を論理的に伝える

- リスク論 リスクと近代社会 大澤真幸……………250
- 時間論 贅沢の条件 山田登世子……………258
- 定番 コミュニズム 名づけと所有 西谷 修……………264
- 実践 意見を文章にまとめてみよう……………272
- 付録 常用漢字表……………274



小説の論理的な読解に最適な「夢十夜」は、「第一夜」「第六夜」「第七夜」を掲載。

戦争と人間について掘り下げた平和教材。

※()内はキーワード

第1章



私たちにはなぜヒーローが必要なのか？ 村田沙耶香
物語論《自己・物語》2500字
いまの自分を作り上げているのは、どのような出会い、どのような体験だったのか。まずは自己を客観的に見つめることから始める。授業開きにも最適な冒頭教材。

第2章



サイエンスの視点、アートの視点 齋藤亜矢
芸術認知科学《二項対立》2900字
「科学」の視点と「芸術」の視点は、対立するのだろうか。「科学」の見方と「芸術」の見方を二項対立で比較して、評論の基本的形を押さえながら、「問いを生み出す力」「感動する力」が出発点であることに気づく評論。

第3章



デジタル社会 黒崎政男
情報論《メディアと権力》22000字
デジタル化が進んだ社会の問題点・危険性を簡潔明快に指摘する。高度情報化社会・メディア論の基礎的評論。

第4章



開かれた文化 岡 真理
文化論《多文化主義・他者・差別》34000字
しばしば「私は私、あなたはあなた」という思考停止に陥りがちな「文化相対主義」の危険性をふまえ、「文化が違う」ということの真のありようを深く見つめる。国際化の時代、安易な「異文化理解」のお題目に惑わされず、

第5章



自分を正しく世界に開いていくための評論。
システムと変異 中野重規
生命論《進化論・生物多様性》26600字
近年大注目の生物学者による生命論。「SDGs」が話題の昨今、まず生命とは何か、多様性にはどのような意味があるのか、基本からきちんと解説した評論。

第6章



記憶する体 伊藤亜紗
当事者論《認知・感覚・記憶》41000字
視覚障害を持つ人へのインタビューを通じて、自らを取り巻く世界が再発見される。再発見した世界を、読者にどのように伝えるか。さまざまな観点から学ぶべきことの多い教材。

第7章



忘却への抵抗 新井 卓
歴史論《継承・歴史・記憶》20000字
「非当事者」が歴史を語り継ぐということの難しさをどのように乗り越えていくべきか。忘却にあらがう方法を読者とともに考える、重要な問題提起。

第8章



待ち伏せ ティム・オプライエン 村椿樹
翻訳小説《体感と記憶・語れないこと》29000字
「私」はなぜ、娘に「嘘」をついたのか。体験を語ることの繊細さを語って、読者に深い印象を残す。この章で「当事者」や「体験」を語り継ぐということの重要性を学ぶと同時に、「話す・聞く」ことに欠かせない慎重さに思い巡らせた。

第9章



失われた両腕 清岡卓行
芸術論《逆説》25000字
長く読み継がれてきた詩人の名文。私たちが日頃とらわれている「前提」をくつがえし、創造性を生み出す豊かな発想に溢れた教材。

第10章



魔術化する科学技術 若林幹夫
科学技術論《合理主義・仮説と反証》29000字
理解不可能な世界・魔術的な世界を明晰に説明できるはずの「科学」が、現代では「魔術」以上に理解不可能な領域と化しうる——華麗なレトリックを通じて、「逆説」的な議論とはどのようなかを学べるスリリングな教材。

第1章



マルジャーナの知恵 岩井克人
経済論《情報社会と差異》23000字
アラビアンナイトの物語を例に、「情報」として「資本主義」というものの本質を華麗に解説。

第2章



身体、この速きもの 鷲田清一
身体論《心身二元論・自意識》39000字
「身体」と「自己」の複雑な関係性を豊富な具体例と巧みな比喩で論じた、王道的身体論。

第3章



来たるべき民主主義 國分功一郎
政治論《社会契約・主権者》30000字
アクティブな政治評論家による政治論を収録。「民主主義の原理を説明した解説文」でもあり、民主主義の特性がわかりやすい。選挙権をもつ年齢に達するまでに、民主主義の根幹にふれておきたい。

第4章



主体という物語 小坂井敏晶
心理学《心理・無意識》26000字
主体的決定というものがいかに頼りないものかということが、心理学的・行動学的観点から論じられる。常識を根本から切り崩す内容で、新鮮な驚きを感じた生徒が多かったという声も寄せられています。

第5章



リスクと近代社会 大澤真幸
リスク論《セキュリティと不安》36000字
人間が「宗教」「身分」といった軛から逃れ、選択の自由の下に生きることが可能になったとき、「リスク——「あれ」ではなく「これ」を選択したことに伴って生じ得る、不確定な損害——」の概念が生まれた。そして、選択決定すべき事柄で横溢する現代社会において、リスクへの危惧は、私たちの伝統的な意思決定のあり方をいかに変えていくのか。これからの社会の問題を暴き出す、切迫した評論。

第6章



警告の条件 山田登世子
時間論《物語・豊かさ》24000字
「近代（＝情報社会）」と「前近代（＝ゆったりとした贅沢な時間）」という二項対立を用いた時間論。一年生にぴったりの内容と構成。

第7章



名付けと所有 西谷 修
コリアリスム《西洋中心主義・先住民・歴史認識》37000字
「命名」という行為がいかに権力的なものか。近代から現代まで、絶えることなく続く支配のシステムを論じる骨太な内容。多様な（近代）論を読んだ後の、総決算として最適な評論。

第8章



ことばがつくる女と男 中村桃子
ジェンダー論《アイデンティティ・構築主義》29000字
「女らしさ／男らしさ」は自明ではない。構築主義の観点からわかりやすく説くジェンダー論。

第9章



誰かの靴を履いてみることに プレイデイみかこ
社会論《社会と共同体・貧困》52000字
話題作「はくはイエローでホワイトで、すこしブルー」を教科書に掲載。生き生きと描かれた著者の息子の姿に、生徒たちも共感したり、考えたり、多くを学ぶことができる。

第10章



贈り物と商品の違い 松村圭二郎
贈与論《商品化・コミュニケーション》37000字
バレンタインデーに贈るチョコレートには、なぜラッピングをするのか。生徒にとって身近な話題を、評論の文脈に乗せると、もの見え方はどのように変わるのだろうか。「論じる」ということの驚きを味わえる評論。

第11章



良識派 安部公房
寓話《寓意・比喩》8000字
寓話を持つ説得力を学び「話し合い」の本質を掘り下げる小説教材。さまざまなジャンルの文章を素材に「話すこと・聞くこと」について理解を深め、多面的な視点を身につけたい。

第12章



人新世における人間 吉川浩満
環境論《SDGs》46000字
現代という時代をどう捉えるか、一つの思いつきが新たな認識の地平を開くダイナミックな論の展開に想像力を刺激される評論。第五章全体を通して、私たちが生きる時代への探究が深まる。

受け止めること、伝えること

第7章

記憶する体 伊藤亜紗……………166

〈課題〉他者のことばに耳を傾けよう

忘却への抵抗 新井 卓……………175

〈課題〉詳細な観察を言語化し、思考を深めよう

待ち伏せ ティム・オブライエン
村上春樹 訳……………181

〈課題〉相手の立場や状況を想像しながら話を聞こう

〔参考〕ジャッジのあり方 尹 雄大……………189

実践 インタビューの作法……………191

❖聞き手としての責任……………194



課題・実践

教材ごとの「課題」と単元ごとの「実践」を提示。
単元で身につける「資質・能力」の内容がわかります。

●単元の目標……受信する力、発信する力を伸ばす

自分の考えを話す時、相手や場面に応じて表現の仕方を工夫することが必要だ。聞き方についても同様である。相手のことばに誠実に耳を傾けることで、相手ならではの見方を知り、自分の考えを広げていくことができる。そのようにして集めた情報をどう整理するのか。資料や機器も活用して、魅力的な発表や心に残るインタビューを実践してみよう。

単元の目標

各単元の「目標」を章扉に提示しました。
単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

資質・能力アイコン

各単元で主に身につけたい「資質・能力」を示す
アイコンを扉ごとに明示しました。

◎おすすめの教材①

本教科書から掲載の新教材。「非当事者」がある出来事を「忘れない」とはどういうことなのか。写真家のまなざしを通して語られる「記憶」をめぐる新鮮な論考。

忘却への抵抗

新井 卓

視点 出来事の記憶は、誰によって、どのような形で継承されるのだろうか。筆者の歴史への向き合い方を理解しよう。

ある出来事を忘れてはならない、とよく言われる。たとえば広島・長崎への原爆投下、一九五四年の第五福竜丸事件や、いまも収束していない福島³の核災害について。そもそも忘却への抵抗という局面において、「忘れてはならない」というスローガンは、だからだれに向かって発せられるのだろうか？ ある出来事をとりまく人々には、出来事に直接遭遇し何がしかの影響を被った人々、そしてそれ以外の人々がおり、日本語では前者を〈当事者〉、後者を〈非当事者〉と呼ぶ。「忘れずにいること」を要求されるのは、主に〈非当事者〉ということになる（〈当事者〉が出来事を忘れてしまう、というようにすることがありえるだろうか）。

忘却への抵抗とは〈非当事者〉を〈当事者〉とともに過去の時空に繋ぎとめ、何がしかの努力を強いることなのだろうか？ そうだとすると、〈非当事者〉はいつまで「忘れずに」いなければならないのか。そもそも実体験を持たない〈非当事者〉にとつて、忘れてはならない「記憶」はどこからもたらされたのか、その実体は何か。
東日本大震災後の福島で撮影をつづける中、原発事故によって避難生活を強いられた

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

人々に出会った。彼女／彼らから話を聞くうち、ほとんどすべての人が「わたしはまだ良かったほうです。」と語ることに気づいた。自分たちよりも、津波で命を落とした人々や、汚染がさらに激しい地域の子供たちの境遇について心を砕いていたのである。しかし、彼／彼女たちこそ出来事の本当の（当事者）ではなかったのか。

爆心地の話をつたえてくれる人は、誰もいません

4 丸木位里・俊『ピカドン』

丸木位里・俊の言葉は、ある事実を簡潔に言い表している。ひとつの出来事に中心点とその周縁にひろがる階調があり、中心に近づくほどより（当事者）たりうる、と考えるなら、その核心には最大の受難者が、すなわち死者たちがいる。死者たちは語る言葉を持たず、中心点に近い生存者たちは語る余力を持たない。すなわち出来事は、出来事の周縁を生きるわたしたち、（非当事者）によって、果敢にも、語られなければならないのである。

二〇一三年の夏、一九五四年にアメリカの水爆実験で被曝した木造マグロ漁船・第五福竜丸の船体を撮影した。



第五福竜丸をダゲレオタイプで分割撮影した写真作品（新井卓、2014年）

一九六七年に廃船となり夢の島の浅瀬に投棄されていた第五福竜丸は、七二年に陸上に移設され、その後船体を囲むように都立第五福竜丸展示館が建築された。展示館の建屋は船のかたちに沿ってぴったりに作られたので、船を引いて見たことも、その全体を一枚の写真に

5 収めることもできない。

どうしても船の全容をとらえられなかったわたしは、悩んだ末、船の左舷側を船尾から船首にかけてぐるりと移動しながら、三百枚のダゲレオタイプで分割撮影を行うことに決めた。

二か月半に及ぶ制作期間のある日、小学校低学年の子どもたちが教諭に引率され第五福竜丸展示

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載しました。

脚問

文脈を押さえる上でポイントとなる部分は簡潔な脚問を通して確認。

主な著作

著者紹介の末尾には、より深く学びたい生徒のために、著者の代表的著作を紹介して、読書活動に配慮しました。



新井 卓 一九七八（昭和五三）年。美術家、写真家。神奈川県に生まれた。ダゲレオタイプを独自に習得し、核の歴史を主題に世界各地で作品を制作、発表する。二〇一六年、木村伊兵衛写真賞を受賞。この文章は二〇二三年刊行の『百の太陽／百の鏡』に収められており、本文は同書によった。
◆主な著作 写真集に『MONUMENTS』、映像詩に『オシラ鏡』など。

……忘却への抵抗

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

館にやってきた。展示館職員による講義が終わり自由時間になると、子どもたちは船体の間際を周回しはじめた。確かめるように船底を叩き、あるいは片手を船底に触れたまま延々と歩きつづけるその光景から、不思議に強い印象を受けた。

その後も毎日展示館に通い撮り進めていくうちに、船の表面が均一でないことにふと気づいた。経年による不均等な劣化だけでなく、船底から甲板に近づくに従い船体の塗装が新しく見えることが特に気になった。

『第五福竜丸保存工事報告書』（一九八九年）には、市民による新聞投書「沈めてよいか、第五福竜丸」（一九六八年三月十日付、朝日新聞）により第五福竜丸が「再発見」されたのち、保存活動とともに船体が塗装されていく過程が記録されている。一九七一年「第五福竜丸を美しくする集い」で一度、一九七二年の陸上固定ののち一度、さらに一九八五年から翌年にかけて行われた大補修工事最後の船体塗装が行われ、ふたたび「第五福竜丸」の船名が揮毫された。すなわち、第五福竜丸の表面は複数の時空の痕跡をとどめ、地層のように露出していることになる。

第五福竜丸の船体をなぞって黙々と周回する子どもたちは、第五福竜丸という Monument の表面にこそ、他者の記憶と複数の歴史との出会いが隠されているのだと、無言で指し示していたのではなかったか。モノの表面こそわたしたちが手で触れ、目でなぞることのできる唯一の場所、Monument の境界面にほかならない。

たとえば第五福竜丸という Monument を訪れることは、船体の表面で（当事者）たちの語りえない記憶に想像力を巡らせ、わたしたち自身のうちに生起する諸感覚を通して、不可能な他者の記憶を生きなおそうとする営みである。
あらゆる文脈や解釈、教義を保留して、Monument の表面に留まりつづけること。そうしてわたしたちは、わたしたちひとりひとりの内に生まれ出ずる、新しい言葉をたずさえ、* からも、他者の記憶から放たれるわずかな光を見出だすだろう。

第7章 受け止めること、伝えること……

重要語句

覚えておきたい熟語や成句・慣用句は見開きごとに整理。

- 8 揮毫 毛筆で文字や絵をかくこと。
- 9 Monument 特定の事件などを後世に伝えるための建造物。[英語] monument
- 10 複数の歴史 [英語] histories
- 11 境界面 [英語] interface
- * からも

学習の手引き

「課題」「構成」「理解」「言語活動」「重要漢字」で構成しました。

言語活動

教材を手掛かりにして、教室で実践できる「言語活動」を提示しました。

課題

教材冒頭の「視点」に対応して、各教材を通じて身につけたい課題を示しました。

話す聞く学習

「課題」詳細な観察を言語化し、思考を深めよう

視覚から得られる情報は膨大で、その全てを処理することは難しい。私たちは、それぞれのやり方で情報を取捨選択しながら物事を判断している。しかし、効率的に行動するためには、情報が捨象されるのは仕方がなくとも、その情報が無意味であるとは言えないはずである。細部まで観察することで、これまで気付かなかった新たな発見があるだろう。それをことばにして表現し、思考を深めていこう。

- 1. 「確認する」(一七六・一)のはなぜか、説明しなさい。
- 2. 「確かめるように……不思議に強い印象を受けた。」(一七八・二)とあるが、それはなぜか、説明しなさい。
- 3. 「あらゆる文脈や解釈、教義を保留して、モニュメントの表面に留まりつづけること。」(一七九・四)とはどのようなことか、説明しなさい。

第7章 受け止めること、伝えること……

「当事者」も、語れない。そのような経験に、私たちはどのように接すればいいのか。教室をさらなる深みへといざなう小説教材を同じ章に掲載しました。

構成・理解

教材の理解に役立つポイントを「構成」と「理解」に分け、問いの形式で示しました。

- ◆構成
 1. 筆者が「原発事故によって避難生活を強いられた人々」(二七五・13)と話し、気付いたことを整理しなさい。
 2. 「丸木位里・俊の言葉」(二七六・7)はどのような「事実」を簡潔に言い表している(同)か、まとめなさい。
- ◆理解
 1. 「ほとんどすべての人が『わたしはまだ良かったほうで

- 重要漢字……
 - 175 抵(抵触)
 - 175 憶(憶測)
 - 176 激(激動)
 - 177 浴(浴革)
 - 177 論(勸諭)

本文中の常用漢字から、学ばべき漢字を選び、本文中で使われた熟語以外の語を示しました。

- 2. 「ある出ほかに、げ、そ(同・11)の来歴……」

待ち伏せ

ティム・オブライエン 村上春樹 訳

九歳のときに、娘のキアスリンが私に尋ねた。お父さんは人を殺したことがあるのかと。彼女は戦争について知っていたし、私が兵隊であったことも知っていた。「お父さんって戦争の話ばかり書いてるじゃない」と娘は言った。「だから誰か殺したはずだって思うの。私は困ってしまった。でも私はそうするのが正しいと思うことをやった。つまり「まさか、殺してなんかいないよ」と言っただけで、娘を膝の上にのせて、しばらく抱いていたのだ。私はまたいつか娘が同じ質問をしてくれないかと思う。しかしここでは私は娘をきちんとした成人であると仮定して扱ってみたい。私は実際に起こったことを、あるいは私の記憶している起ったことを彼女にすっきり話してしまいたい。君が正しかったんだよ、と言おう。そう、それこそが私が戦争の話を書きつづけている理由なのだ。

彼は背の低い瘦せた男だった。年は二十歳前後だった。私は彼が怖かった———というか何かが怖かった。そして彼がその小道を歩いて私の前を横切ったときに、私は手榴弾を投げ、それは彼の足下で爆発し、彼を殺した。

【背景】相手の立場に寄り添って話を聞くにはどうすればいいか、考えよう。

1 その戦争、ベトナム戦争のこと。当時のベトナムは北ベトナム(北ベトナム)と南ベトナム(南ベトナム)に分かれていた。北ベトナムは共産主義、南ベトナムはアメリカ軍を支援するアメリカ軍が中心。七五年、南ベトナムは統一された。北ベトナムは統一された。手榴弾、手で投げられる小型の爆弾。じょうりょうだともいう。

◎おすすめの教材②

本教科書から掲載の新教材。前近代から近代へ、人々の「幸福」のとらえ方はどのように変遷したのか。近代論の入門教材としても最適な評論文。

「幸福」の概念の変容

隠岐さやか

西洋世界における「幸福」の概念というものを考えてみます。とりわけ、一八世紀以降の、社会の近代化と資本主義的な市場経済の進展における「幸福」概念の変容ということに着目したいと思います。

幸せな気持ちがどういふものかを主観的に知っていても、言語化して考えると「幸福」は難しい概念です。一方には、個人の思い込みを書き綴っては忘れられていった数多くの著者がいます。他方で、千年を超えて伝わる哲学議論となると、日常的な感覚では把握しづらい内容となる傾向があります。たとえば、古代ギリシアのストア派は心が平穏な状態を幸福と捉えましたし、²アリストテレスは徳のある生を幸福な生より高次のものとみなす傾向がありました。

一七世紀までの西洋世界ですと、キリスト教の宗教伝統と身分社会という現代にない要素が加わります。その結果、宗教的な神による「救済」に比べて「幸福」というのは個人の問題とされ、あまり思想的には重視されていなかったようです。また、己の存在感に「偉大さ」を求める貴族と、慎ましく暮らし、死後の救済を待つ平民の心性とでは

【視点】一見普遍的に見える「概念」も、時代や社会によって特殊なものとなる。言語化しにくいものに向き合う力を身につけよう。

第8章 深層を探ることは……

- 1 ストア派 キプロスのゼノン(前三三五―前二六四年)が始めた哲学の一派。ストア学派。禁欲と克己による賢者の自足的な生活。不動心(apatheia)を理想とした。
- 【ギリシア語】 stoia
- 2 アリストテレス Aristotlees 前三八四―前三二二年。古代ギリシアの哲学者。

◎ おすすめの教材 ③

人気教材。18歳には選挙権を持つことになる高校生たちに、民主主義を自分事として捉えさせるためにも必須の評論教材。

〈私〉時代のデモクラシー

宇野重規

【視点】議論は民主主義の根幹である。自分の意見だけではなく、〈私たち〉の範囲を意識しながら議論をするようにしよう。

- 1 コマーシャル 商業用の宣伝・広告。【英語】commercial message
- 2 フレーズ 慣用句。決まり文句。【英語】phrase

第5章 話し合いから議論へ……

商品のコマーシャルはストリートです。「自由であれ (Be Free)」、「あなたらしくあれ (Be Yourself)」というフレーズは、現代の宣伝において常套句の最たるものです。しかしながら、ある意味で矛盾しているのは、このように呼びかけるコマーシャルが、「あなたらしくあれ。」といいながら、その上で「うちの会社の商品を買いなさい。」と迫ってくることです。どうやら現代の洗練された市場において、商品化の論理

5

良識派

安部公房

「自分らしさ」さえも商品にしてしまったようです。いや、むしろべきでしょう。消費者の「自分らしさ」意識を満足させるための商生み出されています。とはいえ、それらは綿密な市場調査によって化された「自分らしさ」にはかなりません。「あなたらしさを演じム！」などという吊り広告を見ると、なんともいえない気分になり
例えば、〈私〉が〈私〉であること、〈私〉らしくあることは、現魅力のあることであると同時に、少々つらいことなのかもしれないませ
〈私〉らしくあることを求められます。「あなたの個性は何か。」「あ

昔は、ニワトリたちもまだ、自由だった。自由ではあったが、しかし原始的でもあった。たえずネコやイタチの危険におびえ、しばしばエサをさがしに遠くまで遠征したりしなければならなかった。ある日そこに人間がやってきて、しつかりした金網つきの家をたててやろうと申し出た。むろんニワトリたちは本能的に警戒した。すると人間は笑って言った。見なさい、私にはネコのようなツメもなければ、イタチのようなキバもない。こんなに平和的な私を恐れるなど、まったく理屈にあわないことだ。そう言われてみると、たしかにそれとおりのりである。決心しかねて、迷っているあいだに、人間はどんどんニワトリ小屋をたててしまった。
ドアには力ギがかかっていた。いちいち人間の手をかりなくては、出入りも自由にはできないのだ。こんなところにはとても住めないといワトリたちがいうのを聞いて、人間は笑って答えた。諸君が自由にあげられるようなドアなら、ネコにだって自由にあげられることだろう。なにも危険な外に、わざわざ出ていく必要もあるまい。エサのことなら私が毎日はこちらで、エサ箱をいつもいっばいにおいてあげることにしてしよう。

10

【視点】「良識派」は、知識を効果的に用いて、問題を解決しようとする。その力は、必ずしも「力」を行使するとは限らない。

第5章 話し合いから議論へ……

安部公房の小説を通し、「寓話」という形で主張に説得力を持たせる知識・技能を学びます。

◎ おすすめの教材 ④

人気の定番教材。国語の授業に欠かせない「言語論」。ソシュールが説いた言語の仕組みを、わかりやすく説明します。

ことばとは何か

内田 樹

【視点】ことばにはどのような仕組みや働きがあるだろうか。世界はことばで認識されている。その力を知ることが書くことの前提となる。

ソシュールの言語学が構造主義にもたらしたもつとも重要な知見を一つだけ挙げるなら、それは「ことばとは、『ものの名前』ではない。」ということになるでしょう。ギリシャ以来の伝統的な言語観によれば、ことばとは「ものの名前」です。その典型的な例は『聖書』に見ることができます。

神である主が、土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥をかたちづくられたとき、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が、生き物につける名は、みな、それがその名となった。こうして、人は、すべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。

〔創世記〕二章十九—二十節

アダムの前に野の獣が連れて来られます。それを見て、アダムは「じゃ、これは牛、これは馬、これは犬。」というふうにな名前をつけてゆきます。まず「もの」があり、ただ名前がついていないだけなので、人間がこちらのついで、

10



1 ソシュール Ferdinand de Saussure 一八五七—一九一三年。スイスの言語学者。

2 構造主義 一九六〇年代にフランスで生まれた思想。人間を主体として特別視するのではなく、人間の意識や行動の背後にある非歴史的な構造（関係のシステム）から世界を捉えようとする方法の総称のこと。

第2章 ことばは世界をつくる……

link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



グラフや図表の読み取り、さまざまな視点から書かれた文章など、単元で身につける力をさらに強化する参考教材を掲載。

◆ 参考 ◆

◆ ナイチンゲールが作成した統計図表

かないひとえ
金井一薫

1 ナイチンゲールは、統計学的技法を駆使して独自の統計表を数多く作成しています。

図1(二六〇ページ)は「機密報告書」の中に描かれた「バッツ・ウィング」(コウモリの翼)と呼ばれるグラフです。クリミア戦争中に亡くなった兵士の死亡率を、英国で一番不潔な都市と言われていたマンチェスターの男性の死亡率と比較したものです。

右の円は戦争の始まり時点の一八五四年四月から一八五五年三月までの一年間を一二分割し、中心から離れた第一、第二、第三の円は、各月の一〇〇人当たり一〇〇ずつの死亡率で区切っています。各月の死亡率を軸上にプロットして線で結び、面積で表示しています。そして左の円は一

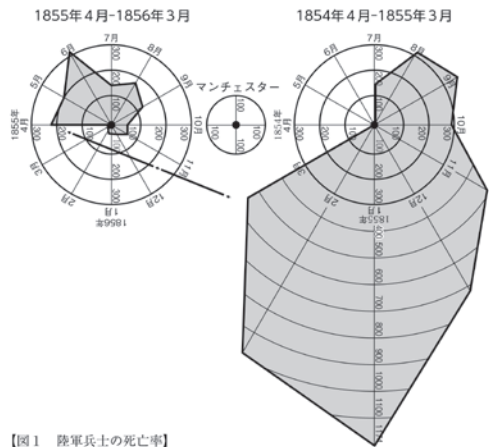
八五五年四月から戦争終結の一八五六年三月までの一年間が示されています。この表からは、一目で一八五五年一二月の死亡率が異常に高く、それが同年の九月には収束している様が見て取れます。この数値は、一八五五年三月に本国から派遣された衛生委員団が衛生対策を施行した後に激減していることを示しています。

真ん中の小さな円の中心にある黒丸の面積が、マンチェスターの男性死亡率ですから、それと比較すると、いかに戦地における兵士の死亡率が高いかが一目でわかります。

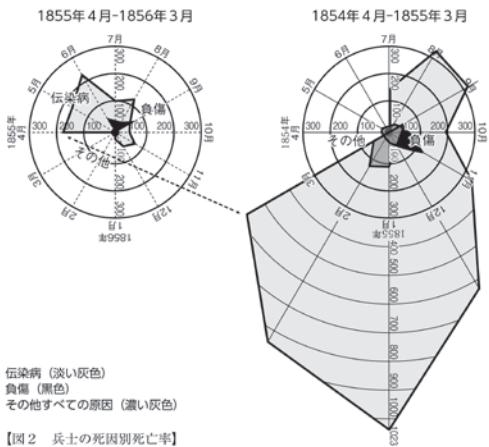
図2(二六〇ページ)も「機密報告書」の中に描かれたもので、同じく「バッツ・ウィング」または「鶏頭図」と呼ばれるグラフです。これは戦闘中の死亡者を除き、伝染

1 ナイチンゲール Florence Nightingale 一八二〇—一九一〇年。イギリスの看護師、看護教育学者。2 クリミア戦争 フランス・オスマン帝国・イギリス・サルデーニャと、ロシアによる大規模戦争。3 マンチェスター イングランドの西北部に位置する都市。

……参考 ナイチンゲールが作成した統計図表



【図1 陸軍兵士の死亡率】



【図2 兵士の死因別死亡率】

よる死亡率を表しています。

これによってナイチンゲールは、死亡者の大部分は戦間によって亡くなったのではなく、収容された病院環境の劣悪さと医療体制の不備が原因で亡くなったのだということ

を可視化して示したのです。

このグラフ作成のための「基礎資料」を次に示します。

死亡率は、次の計算式によって導き出されます。

金井一薫 一九四八(昭和二三)年。看護学・社会福祉学研究者。この文章は二〇一三年刊行の「よみがえる天才 ナイチンゲール」に

西暦年	月	平均兵力	伝染病	負傷	その他
1854	4	8571	1	0	5
	5	23333	12	0	9
	6	28333	11	0	6
	7	28722	359	0	23
	8	30246	828	1	30
	9	30290	788	81	70
	10	30643	503	132	128
	11	29736	844	257	106
	12	32779	1725	114	131
1855	1	32393	2761	83	324
	2	30919	2120	42	361
	3	30107	1205	32	172
	4	32252	477	48	57
	5	35473	508	49	37
	6	38863	802	209	31
	7	42647	382	134	33
	8	44614	483	164	25
	9	47751	189	276	20
	10	46852	128	53	18
	11	37853	178	33	32
	12	43217	91	18	28
1856	1	44212	42	2	48
	2	43485	24	0	19
	3	46140	15	0	35

図3 グラフのために使われた基礎資料

グラフ・表と文章が1つの教材にまとまっています。非連続型テキストの読み取りを学ぶことができる新教材です。

言語文化

◎古典教材(古文・漢文)は定番教材を中心に据え、
 古典を学ぶうえでの基本を重視しました。

◎現代文教材は、近代における先人たちの努力と工夫を
 実感できる教材を取りそろえ、言語文化への関心を
 高めることができました。

教材の特徴

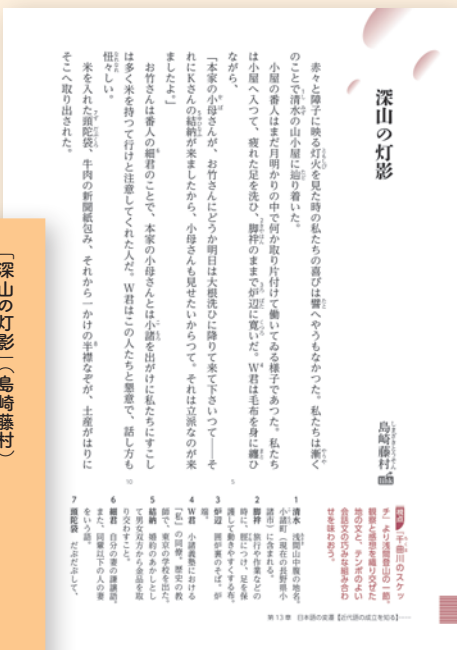
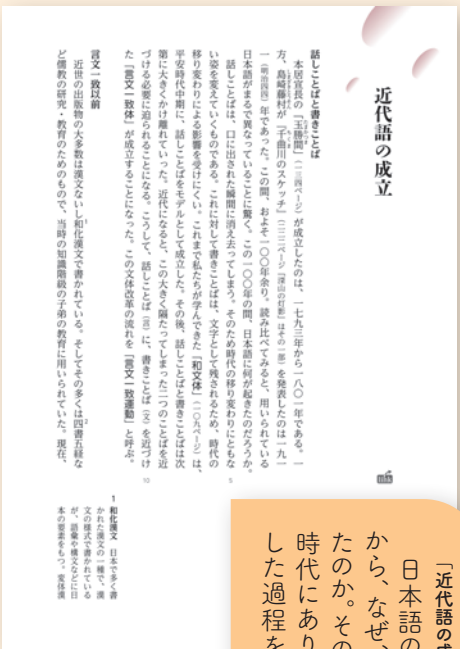
- ① 古文教材は、散文28本、韻文7本。漢文教材は、散文13本、韻文10本。現代文教材は、散文7本(小説1本・随想3本・評論2本・日記1本)、韻文9本。
- ② 入門教材は丁寧な解説。(古文入門・漢文入門)
- ③ 古典から現代への流れを自然に理解できるよう、古典編から現代文編への橋渡しとなる章「日本語の変遷」(第13章)を置きました。
- ④ 近代語の成立過程において、先人たちの葛藤を実感できる近代小説の文体見本を豊富に掲載。
- ⑤ 言語文化を学ぶ意義を問う「言葉の力」(大岡信)、詩歌に関する評論「美の世界」(佐藤春夫)、言語文化の本質を見据えた「物語る声を求めて」(津島佑子)と、古典と近代以降を接続した示唆に富む教材を随所に配置しました。

授業を支える工夫

- ① 古文編・漢文編・現代文編と、授業を構成しやすい3つのブロック。
- ② 学びの見通しを立てるために役立つ「単元の目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ③ 言語文化をよりよく理解するための探究活動例として、「実践」をすべての単元の末尾に掲載。
- ④ 言語文化の世界を広げる比べ読みを随所に掲載しました。
- ⑤ 古文・漢文の理解に役立つコラム(古典文法の窓・訓読のきまり・送り仮名のきまりなど)や、付録(古語の理解・漢文句法一覽)が充実。
- ⑥ 付録に「装束」「調度」「中国の文化」「暦法」など、授業で使えるカラー図版を掲載。

「文体」の変遷を学ぶ授業例

【枕草子】
 【参考】「香炉峰下、新下山尾、草堂初成、偶題東壁」
 日本の古文と、漢文との密接な関
 係を比較しながら、日本の「言語文
 化」の豊かさを学びます。



「深山の灯影」(島崎藤村)
 さまざまな文体が開いた明治時代の、ひとつの到達点として、『千曲川のスケッチ』の一節を掲載しました。
 語り方の違いを知ること、日本の「言語文化」の豊かさを実感できます。

ちくま言語文化 編集委員

- | | |
|-------|------------------|
| 安藤 宏 | 東京大学名誉教授 |
| 井島正博 | 東京大学名誉教授 |
| 大橋賢一 | 北海道教育大学旭川校教授 |
| 門屋 敦 | 東大寺学園中・高等学校教諭 |
| 紅野謙介 | 日本大学名誉教授 |
| 河野龍也 | 東京大学准教授 |
| 五味淵典嗣 | 早稲田大学教授 |
| 清水良典 | 文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授 |
| 関口隆一 | 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 |
| 高田祐彦 | 青山学院大学教授 |
| 橘 直弥 | 灘中学校・高等学校教諭 |
| 千野浩一 | 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 |
| 服部徹也 | 東洋大学准教授 |
| 松田顕子 | 立教新座中学校・高等学校教諭 |
| 三上英司 | 山形大学教授 |
| 吉田 光 | 郁文館中学校・高等学校教諭 |
| 吉田幹生 | 成蹊大学教授 |

「近代語の成立」

日本語の文章は、「枕草子」の文体から、なぜ、現代のような文体に変わったのか。そのターニング・ポイントは明治時代にあります。「言文一致体」が成立した過程を学ぶ章を設けています。

ちくま 言語文化〈古文〉

目次

◎ 古文教材は、散文28本、韻文6本。
 (俳諧含む)
 ◎ スタンダードな教材をバランスよく配列。

言葉の力 大岡 信……11

目次・古文

第1章 古文への扉 古文入門

古文を学ぶために……18

児のそら寝 宇治拾遺物語……19

古典文法の窓1 歴史的仮名遣い……22

大納言頭雅卿 十訓抄……24

古典文法の窓2 品詞の分類……26

絵仏師良秀 宇治拾遺物語……27

大江山 十訓抄……30

古典文法の窓3 用言の活用/音便……32

実践 「構成」を意識して 作品への理解を深めよう……34



第2章 人間の普遍的な姿 物語を読む

竹取物語 かぐや姫誕生……36

かぐや姫の昇天……38

伊勢物語 芥川……43/東下り……45

筒井筒……48

〔参考〕沖つ白浪(天和物語)……51

梓弓……53

実践 当時の文化に注目しよう……56

古典文法の窓4 係り結びの法則/「ば」の用法……55

第3章 自分という他者 日記を読む

土佐日記 門出……58

亡き児をしのぶ……60

帰京……61

更級日記 東路の道の果て……64

をかしげなる猫……66

古典文法の窓5 助動詞……68

実践 一人称で語ってみよう……70



比べ読みに最適な【参考】教材。

第4章 ことばに表れる意思 随想を読む

枕草子 春は、あけぼの……72/ありがたきもの……74

雪のいと高う降りたるを……75

〔参考〕香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁(白居易)……76

徒然草 つれづれなるままに……77

丹波に出雲といふ所あり……78

ある人、弓射ることを習ふに……80

名を聞くより、やがて面影は……82

花は盛りに……83

〔参考〕兼好法師が詞のあげつらひ(玉勝間)……86

方丈記 ゆく河の流れ……87/〔参考〕川上之嘆(論語)……88

飯の庵……89

実践 古典文法の窓6 助詞……91

作者のものの見方を批評してみよう……92

第5章 転換期の文体と行動 軍記を読む

平家物語 木曾の最期……94

古典文法の窓7 敬語法……101

転換期の文学——「平家物語」の魅力 兵藤裕己……102

●和漢混交文と漢字仮名交じり文……109

実践 体験を通して古典文化の理解を深めよう……110

第6章 韻文の表現(一)

和歌・俳諧を鑑賞する 

万葉集……112

古今和歌集……116

新古今和歌集……120

奥の細道 序……123

白河の関……125

立石寺……126

古典文法の窓8 和歌・俳諧の修辞……128

実践 韻文を鑑賞する力を磨こう……130

第7章 練り上げられた思考 評論を読む

正徹物語 待つ恋……132

玉勝間 いにしへよりも後世のまされること……134

古典文法の窓9 まぎらわしい語の区別……136

実践 古文の魅力の小論文にまとめてみよう……137

読書案内……138



古典文法の理解を深めるコラム。

古文の理解を深める「実践」を各章末に入れました。

傍訳つきで丁寧な導入。

◎ 漢文教材は、散文14本、韻文10本。
◎ 漢文の理解に必須の教材をバランスよく配列。

目次：漢文



第8章 漢文への扉 漢文入門 読む

- 漢文を学ぶために……140
- 主な助字(置き字)・返読文字・再読文字……148
 - 送り仮名のきまり……152
 - 憲法十七条 日本書紀……154
- 実践** 「書き下し」という手法で、ことばの構造を考えよう……156

第10章 言動に表れる人間の本质 史伝を読む 読む

- 管鮑之交 十八史略……168
- 刺客荆軻 十八史略……171
- 死諸葛走生仲達 十八史略……175
- 那須宗高 日本外史……178
- 〔参考〕那須与一(平家物語)……179
- 実践** 記録から人物像を具体的に把握しよう……180

第9章 漢語の特色 故事成語を読む 読む

- 守_レ株 韓非子……158
- 推敲 唐詩紀事……159
- 借_二虎威_一 戦国策……160
- 漁父之利 戦国策……162
- 塞翁馬 淮南子……164
- 実践** ことばが創られる過程に触れよう……166

「比べ読み」に最適な【参考】教材。



第11章 韻文の表現(二) 唐詩を翻案する 書く

- 新** 登_二鶴鶴樓_一 王之涣……182
- 鹿柴 王維……182
- 秋風引 劉禹錫……183
- 江雪 柳宗元……183
- 涼州詞 王翰……184
- 望_二廬山瀑布_一 李白……184
- 江南春 杜牧……184
- 漢詩のきまり1……185
- 過_二故人莊_一 孟浩然……186
- 送_二僧歸_二日本_一 錢起……186
- 江村 杜甫……187
- 八月十五日夜、禁中独直、対_レ月憶_二元九_一 白居易……188
- 漢詩のきまり2……190
- 実践** 翻案を通して、自分の思いを伝えよう……191



第12章 読みつがれることば 中国古典思想を読む 読む

- 論語 孔子の説く「知」と「政」……194
- 老子 老子の説く「知」と「政」……199
- 孔子問礼 史記 司馬遷……202
- 雑説 唐宋八家文読本 韓愈……204
- 実践** 表現の特徴を読み取ろう……206

漢文の理解を深める「実践」を各章末に入れました。



漢文学習に必要な知識をまとめたコラム。

◎ 現代文教材は、小説1本、随想3本、評論2本、日記1本、詩7本と短歌・俳句で構成。
◎ 古典からつながる近代以降の名作を豊富に掲載。

目次：現代文



古語から近代語への変遷についての理解を助ける章を設けました。

第13章 日本語の変遷

近代語の成立を知る

近代語の成立……208

● 近代文学の文体……213

余が言文一致の由来 二葉亭四迷……215

新 若葉かげ 樋口一葉……219

新 深山の灯影 島崎藤村……222

実践 「話しことば」と「書きことば」の違いを意識してみよう……228



第14章 韻文の表現(三) 詩歌を作る

詩歌を作る

小諸なる古城のほとり 島崎藤村……230

落葉 ポール・ヴェルレーヌ／上田 敏訳……232

竹 萩原朔太郎……233

樹下の二人 高村光太郎……234

乳母車 三好達治……237

二十億光年の孤独 谷川俊太郎……238

崖 石垣りん……240

短歌……242

俳句……245

美の世界 佐藤春夫……249

実践 詩歌を通して表現力を磨こう……254

第15章 散文の可能性 小説・随想を読む

小説・随想を読む

檸檬 梶井基次郎……256

物語る声を求めて 津島佑子……263



付録

暦法……270

古典文法要覧……272

古語の理解……276

日本文学史……280

中国文化史……284

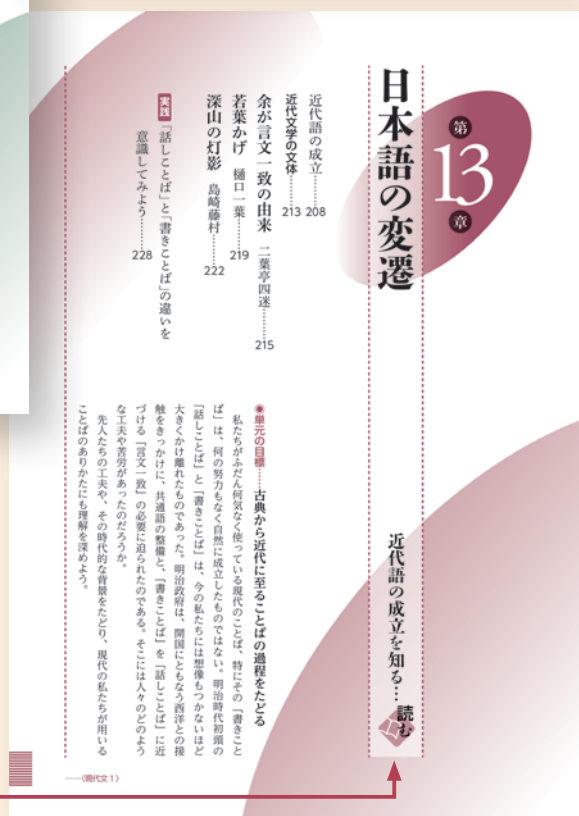
主な漢文句法……286

カラー図版満載のミニ便覧。

『ちくま 言語文化』の最終章は近代小説の名作と、文学の根源に迫る随想で締めくくります。

◎単元の扉

単元ごとに章扉を設けました。



単元の目標
各単元の「目標」を章扉に提示しました。古文・漢文・現代文、それぞれ、単元ごとの学びの見通しに役立ちます。



「資質・能力」アイコン
各単元で身につけたい「資質・能力」を示すアイコンを扉ごとにつけてあります。

◎紙面の紹介(古文)

古文では、1年生にふさわしい基礎的な作品を中心に掲載しました。
(『伊勢物語』からは「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」を厳選)

筒井筒

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大人になりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男は、この女をこそ得めと思ふ。女は、この男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでないありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ。

筒井つの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振分髪も肩すぎぬ君ならずし

てたれかあぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく頼りなくなるままに、もろともに言ふかひなくて



井戸 (住吉如慶「伊勢物語絵巻」)



- 1 田舎わたらひ 田舎暮らしの地方官。
- 2 筒井つ「筒井」は、円い杵をつけた井戸。「つ」は、不明。「筒井筒」とする本もある。
- 3 井筒にかけし「井筒」は、井戸の囲い。背丈を井筒の高さと比べあった。
- 4 振分髪 左右に分けて肩に垂らしたままの子供の髪型。

第2章 人間の普遍的な姿【物語を読む】

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



◎参考

あわせて読むと、理解が深まったり視野が広がる参考教材を適宜配置しました。

◆参考

沖つ白浪

〔大和物語〕

昔、大和の国、葛城の郡に住む男女ありけり。この女、顔かたちいときよ
 なり。年ごろ思ひかはして住むに、この女、いとわろくなりければ、思ひわ
 づらひて、かぎりなく思ひながら妻をまうけてけり。この今の妻は、富みたる
 女になむありける。ことに思はねど、行けばいみじういたはり、身の装束もい
 ときよらにせさせけり。

かくにぎははしき所にならひて、来たれば、この女、いとわろげにてあて、
 かくほかにありけど、さらにねたげにも見えずなどあれば、いとあはれと思ひ
 けり。心地にはかぎりなくねたく心憂く思ふを、しのぶるになむありける。と
 どまりなむと思ふ夜も、なほ「往ね。」と言ひければ、わがかく歩きするをね
 たまで、ことわざするにやあらむ。さるわざせずは、恨むることもありなむな
 ど、心のうちに思ひけり。

さて、出でていくと見えて、前裁の中にかくれて、男や来ると、見れば、端
 に出でて、月のいといみじうおもしろきに、頭がいけづりなどしてをり。夜
 ふくるまで寝ず、いといたううち嘆きてながめければ、人待つなめりと見るに、
 使ふ人の前なりけるに言ひける。

あらむやはとて、河内の国、高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけ
 れど、このものと女、悪しと思へるけしきもなく、出だしやりければ、男、
 異心ありてかかるとやあらむと思ひ疑ひて、前裁の中に隠れて、河内へ往
 ぬる顔にて見れば、この女、いとう化粧して、うちながめて、

7 河内の国、高安の郡 大阪府南部、八尾市のあたり。
 8 風吹けば沖つ白浪「たつ」を引き出すための序詞。「白浪立つ」「たつた山」で掛詞。
 9 たつた山 龍田山。奈良県生駒郡にあり、大和から河内へ渡る道が通ずる。

とよみけるを聞き、かぎりなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。
 まれまれ、かの高安に来てみれば、はじめこそうちとけて、手づから飯匙取りて、筒子のうつはがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそと言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来、に、たびたび過ぎぬれば、君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬも

と言ひけれど、男住まずなりにけり。

(第三段)



風吹けば……(住吉如慶「伊勢物語絵巻」)

学習の手引き

「理解・表現」の二項目に分けて、本文の理解を助けます。

- 理解 (1) 本文を三段落に分けて、それぞれの要旨をまとめなさい。
- (2) 作中の人物が心の中で思っている部分(心内語)はどこか、すべて抜き出しなさい。
- (3) この物語に描かれた「大和」の女と「高安」の女について、その違いを考えなさい。

- 表現 (1) 本文中から係り結びとなっている箇所を抜き出して、結びの語の活用形を確かめなさい。

大和物語 歌物語。原型は十世紀の中頃に成立し、その後増補されて、同世紀末までに現在の形となったらしい。百七十三の章段から成る。うち約百五十段は実在の人物の歌による歌語りで、残りは歌に結びついた伝説・説話である。本文は「新編日本古典文学全集」によった。

- 1 大和の国、葛城の郡 奈良県西部、御所市と葛城市のあたり。
- 2 かぎりなく思ひながら (もとの妻を) この上もなく愛しいと思ひながら。
- 3 にぎははしき所にならひて 裕福な所に通り慣れて。

- 4 ことわざするにやあらむ ほかの男を通わせているのであろうか。

- 5 使ふ人 召使い。
 *きよらなり *年ごろ *わろし
 *まうく *さらに:(ず)
 *ねたし *おもしろし

……(古文2)参考 沖つ白浪

重要古語

古文の重要語を本文中に*印で示し、見開きごとに整理しました。

◎ おすすめの教材（古文①）

本教科書から掲載の新教材。『枕草子』『徒然草』『方丈記』の三大随筆を掲載しました。

まくらのかうし
枕草子

春は、あけぼの

春は、あけぼの。¹ やうやう白くなりゆく、² 山ぎは少し明りて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。³

夏は、夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は、夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬は、つとめて。雪の降りたるは言ふべきにあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとつき

せいせうなごん
清少納言



視点 具体例をあげながら展開していく独特の文体を味わおう。また、古語の形容詞の意味と効果を捉えよう。

- 1 あけぼの 日の出直前の、空の白む時分。まだ暗い「暁」よりも後。
- 2 山ぎは 空の、山と接する部分。
- 3 さらなり 「言ふもさらなり」の略。
- 4 何に対して「闇も」と言っているのか。
- 5 山 山の端 山の、空と接する部分。「山ぎは」(七二・一)と対。
- 6 はた これまた、の意で、強調。
- 7 なぜ「言ふべきに(も)あらず」なのか。
- 8 さらでも 「さらでも」の略。
- 9 わたる 通ってゆく。

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

脚問

文脈を理解する上でポイントとなる部分は簡潔な脚問を通して確認。

年表

作品の書かれた時代を年表で分かりやすく示しました。

◎ おすすめの教材（漢文①）

漢文読解のポイントが分かる、充実の工夫。

導入の部分では、漢文を学ぶ意義や訓読について、丁寧に解説しました。

漢文を学ぶために

古代の日本人は、日本語で思いや考えを伝え合っていました。文字を開発するに至りませんでした。日本人が初めて出会った文字は、隣国である中国のことば(漢語)を表記するために作られた漢字でした。

子日学而時習之不亦説乎

これは、中国の古典、論語(学問編)の「学而」で、「先生がおっしゃった、学んで何度も繰り返して身につける、なんとうれしいことではないか」という意味です。当初は、このような一節を、日本人も全て音読みして、いと考られます。しかし、後世、直接意味が理解できるように、句読点を付けて文や内容の切り方をわかりやすくした上で、漢語を日本語に直接置き換えるようになりました。「学」には「まなぶ」「習」は「なまひ」「説」は「はなはだ」「不」は「な」「亦」は「また」「不亦説乎」は「また、(まなぶ)「習」は「なまひ」「説」は「はなはだ」



第8章 漢文への関心【漢文入門】

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

送り点使用の実例図 右に紹介した送り点は、単独で用いられることは少なく、次のように複合的に使用される場合がほとんどです。

① 「不」は「不」が併用される場合。
 君子、不以言、善人。
 ② 「不」は「不」が併用される場合。
 無、不知、愛、其、親、者。
 ③ 「不」は「不」が併用される場合。
 勿、以、惡、小、為、之、。
 ④ 「不」は「不」が併用される場合。
 吾、日、三、省、吾、身、。

⑤ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑥ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑦ 「不」は「不」が併用される場合。

⑧ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑨ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑩ 「不」は「不」が併用される場合。

⑪ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑫ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑬ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑭ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑮ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑯ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑰ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑱ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑲ 「不」は「不」が併用される場合。
 ⑳ 「不」は「不」が併用される場合。

⑳ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉑ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉒ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉓ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉔ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉕ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉖ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉗ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉘ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉙ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉚ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉛ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉜ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉝ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉞ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㉟ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊱ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊲ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊳ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊴ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊵ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊶ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊷ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊸ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊹ 「不」は「不」が併用される場合。
 ㊺ 「不」は「不」が併用される場合。



—(漢文) 漢文を学ぶために—

漢文入門

豊富に掲載した例文が、内容の理解を深めます。

漁父之利

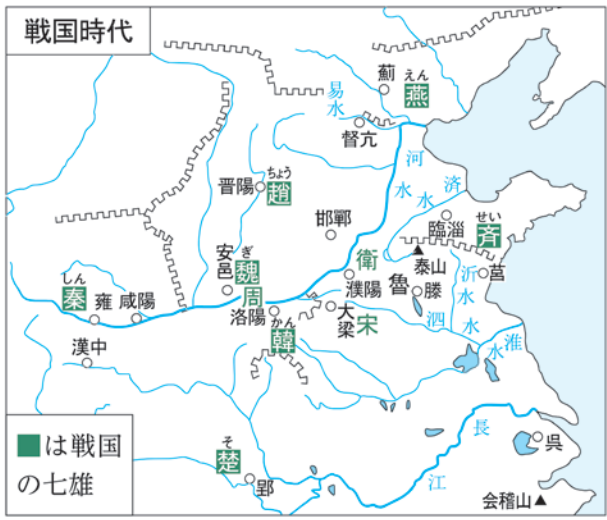
代^{だい}為^た為^た燕^{えん}謂^い謂^い惠^{えい}王^{わう} 趙^{てう}且^ま且^ま伐^う伐^う燕^{えん}蘇^そ 日^に今^{けふ}者^{しや}者^{しや}臣^{しん}来^き来^き過^か過^か 易^{えき}水^{すい}水^{すい}蚌^{ぱう}方^ま方^ま出^い出^い曝^{ぱく} 而^{しかう}而^{しかう}鷓^つ鷓^つ其^そ其^そ肉^{にく}蚌^{ぱう} 合^が而^{しかう}箝^か其^そ喙^{くち}鷓^{ぱう} 日^に不^ふ雨^う雨^う明^{めい} 日^に今^{けふ}不^ふ雨^う明^{めい} 日^に不^ふ雨^う即^即有^有死^死

旧字体

常用漢字体と旧字体(正字)の字画が異なる場合には、初出に旧字体を示しました。

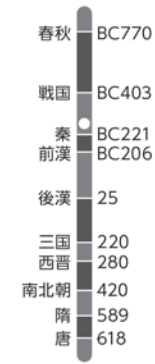
図版

本文の理解を助ける図版を豊富に掲載しました。



年表

作品の書かれた時代もしくは場面を年表で分かりやすく示しました。



参考イラスト

脚注欄には適宜、理解を助けるイラストを入れました。



句法のまとめ

重要な句法を本文中に*印で示し、教材ごとに整理しました。

蚌^{ぱう}亦^{また}謂^い謂^い鷓^つ鷓^つ日^に今^{けふ}不^ふ出^い出^い明^{めい}日^に不^ふ出^い出^い即^即有^有死^死 死^し鷓^つ鷓^つ者^{しや}者^{しや}不^ふ肯^か肯^か相^あ相^あ舍^あ舍^あ漁^い漁^い者^{しや}得^て而^{しかう}并^あ并^あ擒^{とら}擒^{とら}之^を今^{けふ} 趙^{てう}且^ま且^ま伐^う伐^う燕^{えん}燕^{えん}趙^{てう}久^く久^く相^あ相^あ攻^め攻^め以^も以^も敵^て敵^て大^{たい}大^{たい}衆^{しゆ}衆^{しゆ}臣^{しん}恐^{おそ}恐^{おそ}強^{きやう}強^{きやう} 秦^{しん}之^の為^{ため}為^{ため}漁^い漁^い父^ふ父^ふ也^{なり}願^{ねが}願^{ねが}王^{わう}熟^{じゆく}熟^{じゆく}計^{けい}計^{けい}之^を也^{なり}惠^{えい}王^{わう}日^に善^{ぜん}善^{ぜん} 乃^{すなは}乃^は止^や止^や

〔戦国策〕 5

- 1 漁父 漁師。この「父」は、男性に対する呼び名。
- 2 趙 戦国時代の国名。燕とともに戦国の七雄のうちの一つ。
- 3 蘇代 戦国時代の遊説家(諸国を巡って政策を提言する思想家)の一人。
- 4 惠王 趙の惠文王。在位、前二九八―前二六六年。
- 5 臣 君主に対するときの一人称。
- 6 易水 現在の河北省を流れる川。
- 7 蚌 からす貝、どぶ貝などの二枚貝。
- 8 曝 日光浴。
- 9 鷓 鷓鴣。水辺にすむ鳥。
- 10 不出 くちばしが抜けない。
- 11 不肯 承知しない。
- 12 舍 やめる。「捨」に同じ。
- 13 秦 戦国の七雄の一つだが、当時最大の強国で他の六国を圧迫していた。

句法のまとめ

◆理解 (1)「鷓」と「蚌」の会話の部分(二六二・七、二六三・一)を、書き下し文にしなさい。
 ◆表現 (1)「漁父の利」の意味を辞書で調べ、この故事成語を用いた短文を書きなさい。
 *目し(目) いまにもする(再読文字・近接未来)(二六二・一、二六三・三)
 *A(即) もしAすると、その時はBである(仮定)(二六二・八、二六三・一)
 *願(願) どうかして(させて)ください(希望)(二六三・四)

戦国策 前漢の劉向編。戦国時代に各地を遊説して政策を説いた人々(縦横家)の言動や議論を国別に分類し、集成したもの。相手を説得するための比喩や寓話が多く含まれている。
 劉向 前七七―前六年。前漢の学者。字は子政、名は更生。後に向に改める。編著書に「説苑」「戦国策」「列女伝」などがある。

◎おすすすめの教材（現代文②）

「言文一致」を進めるために、どのような苦悩や工夫があったのか。明治の証言を読むことができます。

余が言文一致の由来

言文一致についての意見と、そんなたいした研究はまだしてないから、いっそひとつ機嫌話をしよう。それは、自分をはじめて言文一致を書いた由来——もすまじいが、つまり、文章が書けないから始まったという一部始終の顛末さ。
もう何年ばかりになるかしらん、よっぽど前のことだ。何かひとつ書いてみたいとは思ったが、元来の文章下手で、かいてもく方が分からね。そこで、坪内先生のところへ行って、どうしたらよからうかと話してみると、圓朝の落語通りに書いてみたらどうかと。で、仰せのままにやってみた。ところが自分は京弁だ。すなわち東京弁の作物が一つできたわけ行くと、とくと目を通しておられたが、たちまちのままでいい、なまじつか直したりなんぞせぬほ自分は少し気味が悪かったが、いいと言おうのを内心少しはうれしくもあつたさ。それはとにかく

二葉亭四迷

【視点】二葉亭四迷がどのような格闘を経て言文一致の文体を獲得したのかを理解しよう。

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

言文一致についての意見と、そんなたいした研究はまだしてないから、いっそひとつ機嫌話をしよう。それは、自分をはじめて言文一致を書いた由来——もすまじいが、つまり、文章が書けないから始まったという一部始終の顛末さ。
もう何年ばかりになるかしらん、よっぽど前のことだ。何かひとつ書いてみたいとは思ったが、元来の文章下手で、かいてもく方が分からね。そこで、坪内先生のところへ行って、どうしたらよからうかと話してみると、圓朝の落語通りに書いてみたらどうかと。で、仰せのままにやってみた。ところが自分は京弁だ。すなわち東京弁の作物が一つできたわけ行くと、とくと目を通しておられたが、たちまちのままでいい、なまじつか直したりなんぞせぬほ自分は少し気味が悪かったが、いいと言おうのを内心少しはうれしくもあつたさ。それはとにかく



『安愚楽鍋』挿絵（河鍋晩斎画）

【近代文学の文体】
『安愚楽鍋』（戯作）
苦しい算段にて求めたる袖時計の安物を機からはづしてときどき時を見るハそつちのけ、じつハほかのものへ見せかけなり。ただし鎖ハきんのでんぶら（金メッキのこと）と見えたり。隣に牛を食ひてゐる客に話をしかける。「モシあなたエ、牛ハ至極高味ですネ。この肉がひらけちゃアばたん（イノシシ肉）や紅葉（鹿肉）ハ食へやせん、こんな清潔なものをなせいまままで食ハなかつたのでござせう。」
【牡丹灯笼】（口述筆記）
毎にも異ならず根津の清水の下から駒下駄の音高くカラコロン／＼とするから、新三郎ハ心の裡で、ソラ来たとき小さくかたまり、顔から顔へ懸けて汗を流し、一生懸命一心不乱に雨宝陀羅尼經（お経の一種）を説誦して居ると、駒下駄の音ガ池垣の元でぱたり止まりましたから、新三郎ハ止せばい、に念仏を唱へながら蚊帳を出て、窓と戸の節穴から覗いて見ると、毎時の通り牡丹花の灯笼を下げて米が先へ立ち、後にハ髪を文金の高髷（女性の髪型の種類）に結び上げ、秋草色染の振袖に燃える様な緋縮緬（濃く明るい赤色の絹織物）の長襦袢（着物の間に着る下着）、其の綺麗な事云ふハかりもなく、綺麗ほど飾り、これが幽霊かと思へば、萩原ハ此の世からなる焼熱地獄に墜ちたる苦しみです。萩原の家ハ四方八方に御札が貼つてあるので、陰鬼が腫して後へ下がりが、米一俵様とても入れません。萩原様ハ御心変はりが遊バシまして、昨晩の御言葉と違ひ、貴嬢をいれやうに戸締りが付きましたから、逆も入る事は出来せんからお諦め遊バシませ。……」
【浮雲】（夕体）
頼まれても文三には其様な卑屈な真似は出来ぬ、それを昇はお政如き愚痴無知の（おろかで知恵の浅い）



『浮雲』人物紹介（長谷川竹葉画）

◎おすすすめの教材（現代文③）

近代文学の豊かさを味わえる名短編をそろえました。

若葉かけ

二十五日。雨ふる。つとめて小石川に行く。ひる頃より空名残なく晴れて、日かげ花やかに差し入りぬ。今日は何となく物の手につかぬやうに覚ゆるは、何故なりしや、おのれも知らず。暮々に帰宅す。その夜桃水師のもとへ息あり。小説の事にも、もの語りあり、かつ、先の口おきし即真居士への紹介をなすべければ、さる車らんには、明日午前より神田の表神保町俵とかやる下宿まで、まうこよとなり。母君にもはかり参らず行きねとのたまふ。今宵は、何となく、むね打ちふふ

樋口一葉

【視点】和文体で書かれた日記を読み、明治期の文体の多様性に触れよう。小説家を志す一葉が感じた困難にも注目したい。

深山の灯影

島崎藤村

赤々と障子に映る灯火を見た時の私たちの喜びは譬へやうもなかつた。私たちは漸くこので清水の山小屋に辿り着いた。
小屋の番人はまだ月明かりの中で何か取り片付けて働いてゐる様子であつた。私たちは小屋へ入つて、疲れた足を洗ひ、脚絆のままで炉辺に寛いだ。W君は毛布を身に纏ひながら、
「本家の小母さんが、お竹さんにどうか明日は大根洗ひに降りて来て下さい——それにKさんの結納が来ましたから、小母さんも見せたいからつて。それは立派なのが来ましたよ。」
お竹さんは番人の細君のことで、本家の小母さんとは小諸を出がけに私たちにすこしは多く米を持って行けと注意してくれた人だ。W君はこの人たちと懇意で、話し方も忸々しい。
米を入れた頭陀袋、牛肉の新聞紙包み、それから一かけの半襟なぞが、土産がはりにそこへ取り出された。

1 清水 浅間山中腹の地名。
2 小諸町（現在の長野県小諸市）に含まれる。
3 脚絆 旅行や作業などの時に、腰につけ、足を保護して動きやすくする布。

第13章 日本語の変遷【近代語の成立を知る】……

明治を代表する女性作家の日記文学より。
擬古文体の一例として読み味わいたい作品です。

言文一致体の一つの到達点として、『千曲川のスケッチ』の一節を掲載。

現代の国語

改訂版

目次

◎ 評論教材を25本掲載。
 ◎ 基本的に章ごとの教材は易→難へ。
 ◎ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のアイコンで、どの領域の「資質・能力」を養うのに適した教材かが一目瞭然。

目次

第1章

問うこと、語ること

定番 境界論 境目 川上弘美……10

二項対立

サイエンスの視点、アートの視点 齋藤亜矢……16

実践 「質問する力」を育てよう……24

〔参考〕一般化のワナ 苫野一徳……26

第2章

評論文への招待

定番 言語論 ことばとは何か 内田 樹……30

情報論

デジタル社会 黒崎政男……37

生命論

システムと変異 中屋敷 均……43

実践 評論文の一節を引用し、自分の意見を述べよう……50

◎ 評論読解のポイント……52

第3章

ことばで伝える思いと考え

定番 ジェンダー論 ことばがつくる女と男 中村桃子……56

定番 身体論 身体、この遠きもの 鷺田清一……63

贈与論

贈り物と商品の違い 松村圭一郎……72

実践 メモ・ノートの取り方・活かし方を学ぼう……81

◎ 要約作成のポイント……83

第4章

情報と推論

定番 芸術論 失われた両腕 清岡卓行……86

推論

兎が自分でつづって語る生活の話 E・シートン 内山賢次訳……94

実践 社会をつくることば——情報の整理と活用……100

〔参考〕ナイチンゲールが作成した統計図表 金井一薫……104

第5章

話し合いから議論へ

社会論 誰かの靴を履いてみることに ブレイディみかこ……108

デモクラシー 〈私〉時代のデモクラシー 宇野重規……118

実践 「議論する力」を育てよう……126

読書案内 この場で重なることばと声……128

おさえておきたい定番評論。

現代文読解に必要な知識・技能を詳しいコラムで丁寧に解説。

グラフや表の読み取りに最適な教材。

探究活動に役立つ「実践」。

第6章

根拠から主張へ

- 定番 科学技術論 魔術化する科学技術 若林幹夫……………130
- 論理学 未来は存在しない 野矢茂樹……………137
- 定番 経済論 マルジャーナの知恵 岩井克人……………144
- 実践 議論の前提を明確化しよう……………150
- 読書案内 思考を鍛える……………152

第7章

伝えること、受け止めること

- メディア論 ポスト真実時代のジャーナリズム 国谷裕子……………154
- コミュニケーション論 会話と対話 長田 弘……………160
- 当事者論 記憶する体 伊藤亜紗……………165
- 実践 インタビューの作法……………174
- 実践 ビブリアバトルに挑戦しよう……………176

第8章

表現のみがき方

- 時間論 贅沢の条件 山田登世子……………178
- 近代論 瓦を解かないこと 堀江敏幸……………184

第9章

主張の論理的な伝え方

- 実践 宣伝のことば——ポップ・広告……………190
- 実践 生活の中のことば——手紙案内文……………193

第10章

複眼的な視点

- 定番 文化論 開かれた文化 岡 真理……………214
- 環境論 人新世における人間 吉川浩満……………222
- 定番 コミアリズム 名づけと所有 西谷 修……………232
- 実践 対比の働きを理解しよう……………241
- 付録 常用漢字表……………242

「話す・聞く」領域の単元も領域の参考となる教材をしっかり提示。

※《》内はキーワード

第1章



境目 川上弘美

境目 川上弘美
 県と県の境目、季節と季節の境目、人と人の境目——時間を四季に切り分けるような豊かさと同時に、「差別」を生み出す危険性も秘めた「境界」というものの不思議さを論じた文章。中学生から高校生へと新たな「境目」を踏み越える子ども達にふさわしいこの教科書の核となる教材。
 サイエンスの視点、アートの視点 齋藤亜矢
 「科学」の視点と「芸術」の視点は、対立するのだろうか。「科学」の見方と「芸術」の見方を二項対立で比較して、評論の基本的形を押さえながら、「問いを生み出す力」「感動する力」が出発点であることに気づく評論。



第2章



ことばとは何か 内田 樹
 言語論《分節化》2800字
 ソニールの学説をわかりやすく解説。記号論を早い段階できちんと押さえるのに最適な評論。
 デジタル社会 黒崎政男
 情報論《メディアと権力》2200字
 デジタル化が進んだ社会の問題点・危険性を簡潔明快地指摘する。高度情報化社会・メディア論の基礎的評論。
 システムと変異 中屋敷 均
 生命論《進化論・生物多様性》2600字
 近年大注目中の生物学者による生命論。「DGS」が話題の昨今、まず生命とは何か、多様性にはどのような意味があるのか、基本からきちんと解説した評論。



ことばがつくる女と男 中村桃子
 ジェンダー論《アイデンティティ・構築主義》2900字
 「女らしさ/男らしさ」は自明ではない。構築主義の観点からわかりやすく説くジェンダー論。
 身体、この遠きもの 鷺田清一
 身体論《心身二元論・自意識》3900字
 「身体」と「心」との複雑な関係性を豊富な具体例と巧みな比喻で論じた、王道の身体論。
 贈り物と商品の違い 松村圭二郎
 贈与論《商品化・コミュニケーション》3700字
 バレンタインデーに贈るチョコレートには、なぜラッピングをするのか。生徒にとって身近な話題を、評論の文脈に乗せると、もの見え方はどのように変わるのだろうか。「論じる」ということの驚きを味わえる評論。

第6章



魔術化する科学技術 若林幹夫
 科学技術論《合理主義・仮説と反証》2900字
 理解不可能な世界・魔術的な世界を明晰に説明できるはずの「科学」が現代では「魔術」以上に理解不可能な領域と化しうる——華麗なレトリックを通じて、「逆説」的な議論とはどのようなものを学べるスリリングな教材。未来は存在しない 野矢茂樹
 論理学《前提と命題・真と偽》3000字
 軽快な文体で読者の知的好奇心を刺激してやまない哲学者による、「当たり前」を疑う議論。論理学の基本である「前提」と「命題」、「真」と「偽」について、扱うことができる評論。
 マルジャーナの知恵 岩井克人
 経済論《情報社会と差異》2300字
 アラビアンナイトの物語を例に、「情報」そして「資本主義」というものの本質を華麗に解説。

第7章



ポスト真実時代のジャーナリズム 山田登世子
 メディア論《メディアリテラシー・ポピュリズム》2400字
 NHKの報道番組「クローズアップ現代」でメインキャスターを務めた著者によるメディア論。現代人が直面する「ファクト」とは何か、という問題や、メディアリテラシーの重要性をあらためて考えさせる好教材。
 会話と対話 長田 弘
 コミュニケーション論《公共圏と親密圏》1800字
 コミュニケーションとは、たんに言葉を交わすだけで成立するものなのか、コミュニケーションの在り方が問われる昨今、話し合いの姿勢を詩人から学ぶ。記憶する体 伊藤亜紗
 当事者論《認知・感覚・記憶》4100字
 視覚障害を持つ人へのインタビューを通じて、自らを取り巻く世界が再発見される。再発見した世界を、読者にどのように伝えるか。さまざまな観点から学ぶべきことの多い教材。

第3章



ことばがつくる女と男 中村桃子
 ジェンダー論《アイデンティティ・構築主義》2900字
 「女らしさ/男らしさ」は自明ではない。構築主義の観点からわかりやすく説くジェンダー論。
 身体、この遠きもの 鷺田清一
 身体論《心身二元論・自意識》3900字
 「身体」と「心」との複雑な関係性を豊富な具体例と巧みな比喻で論じた、王道の身体論。
 贈り物と商品の違い 松村圭二郎
 贈与論《商品化・コミュニケーション》3700字
 バレンタインデーに贈るチョコレートには、なぜラッピングをするのか。生徒にとって身近な話題を、評論の文脈に乗せると、もの見え方はどのように変わるのだろうか。「論じる」ということの驚きを味わえる評論。

第8章



贅沢の条件 山田登世子
 時間論《物語・豊かさ》2400字
 「近代（＝情報社会）」と「近代（＝ゆつたりとした贅沢な時間）」という二項対立を用いた時間論。一年生にぴったりの内容と構成。
 瓦を解かないこと 堀江敏幸
 レトリック《メタファーとメトニミー》1800字
 「瓦」というモノのあり方に着目して、震災後の現代社会のありよう・あるべき形を語った、骨のある文章。連想から連想へと飛躍する、詩的な文章を読みこなす力をつけられる随想的教材。

第4章



失われた両腕 清岡卓行
 芸術論《逆説》2500字
 長く読み継がれてきた詩人の名文。私たちが日頃とらわれている「前提」をくつがえし、創造性を生み出す豊かな発想に溢れた教材。
 兎が自分でつづって語る生活の話 E・シートン/内山賢次訳
 推薦《帰納と演繹》1900字
 克明に記録したウサギの足跡から、自然の物語を推論する思考の軌跡をたどる。古典的名著「シートン動物記」から学ぶ推論の楽しみ。

第9章



開かれた文化 岡 真理
 文化論《多文化主義・他者・差別》3400字
 しばしば「私は私、あなたはあなた」という思考停止に陥りがちな「文化相対主義」の危険性をふまえ、「文化が違う」ということの真のありようを深く見つめる。国際化の時代、安易な「異文化理解」のお題目に惑わされず、自分を正しく世界に開いていくための評論。
 人新世における人間 吉川浩満
 環境論《SDGs》4600字
 現代という時代をどう捉えるか。一つの思いつきが新たな認識の地平を開くダイナミクスに想像力を刺激される評論。第五章全体を通して、私たちが生きる時代への探究が深まる。

第5章



誰かの靴を履いてみることを ブレイディみかこ
 社会論《社会と共同体・貧困》5200字
 話題作「ぼくはイエローでホワイトで、すこしブルー」を教科書に掲載。生き生きと描かれた著者の息子の姿に、生徒たちも共感したり、考えたり、多くを学ぶことができる。
 《私》時代のデモクラシー 宇野重規
 デモクラシー《近代化》3900字
 平明な文体で、この複雑な時代を解きほぐす。人気政治学者のデモクラシー論。民主主義の基本は「私たち」の問題を話し合うことだが、では、「私たち」には誰が含まれるのだろう。18歳を目前に、生徒たちとあらためて考えたいデモクラシーの問題。

第10章



名付けと所有 西谷 修
 コロニアリズム《西洋中心主義・先住民・歴史認識》3700字
 「命名」という行為がいかに権力なものか。近代から現代まで、絶えることなく続くシステムを論じる骨太な内容。多様な《近代》論を読んだ後の、総決算として最適な評論。

◎おすすめの教材①

生徒たちが生きる現代社会の問題点を、
わかりやすいことばで丁寧に論じた評論。

ポスト真実時代のジャーナリズム

国谷裕子 くにや ひろこ

視点 私たちはどのような情報空間にいるのか。情報と社会の関係を考え、情報を適切に判断する力を身につけよう。

第7章 伝えること、受け止めること……

イギリスの『オックスフォード辞典』が、二〇一六年の「今年の言葉」として「ポスト真実 (Post-truth)」を選んだと聞いたときのことはいまだに忘れられない。三〇年近くにわたってテレビメディア、しかも報道番組に関わってきた者として、「ポスト真実」、つまり客観的な事実や真実よりも、感情的な訴えかけが多くの人に影響を与え、世論形成に大きなインパクトをもたらし始めているとの指摘は、まるでこれまでの自らの仕事を否定されたかのように思えるほどの衝撃を私に与えた。

すぐに私は、当時、新聞に連載していたエッセイで、こう書いた。

「ポスト真実という言葉の誕生は、真実を取るに足りないものと受け止める社会の広がりのようにも思え、ジャーナリズムにとって深刻な事態だ」「真実を踏まえて人々は判断するというのが健全な民主主義だったはずなのでは」。いささか青臭い問いだと書きつつも、これが正直な思いだった。

ポスト真実の時代、それは人々が、真実よりも自分の感情に寄り添う情報のほうを信頼してしまう、自分が共感できることだけを信じるようになってしまいう時代だ。確認

- 1 「オックスフォード辞典」イギリスのオックスフォード大学出版局が刊行している英語辞典。最大規模の、最も権威ある辞書の一つ。
- 2 ポスト真実 (Post-truth) 直訳すれば、真実の後に来るもの、の意。「ポスト (post)」は、その後、の意。「オックスフォード辞典」によれば、「客観的な事実が重視されず、感情的な訴えが政治的に影響を与える状況」。
- 3 メディア 情報伝達の仲立ちをするもの。媒体。手段。[英語] media
- 4 インパクト 物理的・心理的な衝撃。[英語] impact

バイアス」という言葉があるように、人は、自分があらかじめ共感できるものを裏付ける情報だけを重視する傾向がある。しかし、そういう情報だけを集めれば、自分のもとから持っていた考え方をより強固にし、それに反する意見には耳を傾けないどころか、排除してしまうことにつながる。

SNSでつながった友達、SNSでフォローしている人々から送られる情報にばかりアクセスしていると、多様な情報に接しているつもりでも偏った情報、自分が共感しやすいものだけに接してしまいがちになる。こうしたなかで多様な人々の存在、自分とは異なる多様な考え方があることを知る機会が減っていく。それぞれが固有の情報空間のなかでの対話だけを行うようになり、人々の間に情報の分断、お互いの排除さえ起きてくる。いま、社会はその傾向を強めている。

メディアの視聴者や読者は、いまや「楽」であるからだけでなく、より積極的、能動的に、自らの感情や思いに沿ったものだけを、メディアが提供する情報のなかから選ぶようになったのだ。そして、そのことは、もう一歩進んで、自らの感情が一体化できる情報をより多く提供してくれるメディアだけに接するようになる傾向をも示している。情報をメディアから選択するのではなく、一体化できるメディアの選択へ」という変化が生まれつつあるように思える。

- 5 pact 時事的な問題の報道・解説・批評などを行う活動のこと。[英語] journalism
- 6 確認バイアス 自分の願望等にとって都合の良い情報ばかりを重視し、都合の悪い情報は軽視する傾向のこと。「バイアス [英語] bias」は、偏り、のこと。
- 7 SNS インターネットを介して共同体を構築できるサービス。[英語] social networking service の略。
- 8 フォロー SNSで他人の投稿を追えるようにすること。[英語] follow
- 9 アクセス 情報システムに接続すること。[英語] access
- 10 「楽」とはどのようなことか。

……ポスト真実時代のジャーナリズム

脚問 文章を理解する上でポイントとなる部分は、簡潔な脚問を通して確認。

視点 身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。



番組でインタビューする著者

こうして、視聴者や読者、現在のメディアの受け手は、これまでメディアを通して得ていた、異質なものに触れる機会を失いつつある。

この背景になががあるのか、明確な答えはない。しかし、この傾向が強まっていく社会に起こっていたのは、経済格差の拡がり¹⁰と、それがもたらす不公平感の高まりだ。そのことと、自らが共感できる、感情が一体化できる情報だけを取り込み、異質なものは排除していくというポスト真実の流れは、無縁とは思えない。むしろ経済格差の拡大によって進みつつある社会の分断は、情報空間の分断によって一層進んでいくことになるかもしれない。

これまで受け手側のメディア・リテラシーの高まりのなかで、それにきちんと向き合うためにも、伝える側の人間は、思い込みや先入観、偏見から自由になることで、いかにして物事の本質に迫れるかという努力を重ねてきた。しかし、受け手自身が、真実や事実¹¹にこだわらざることを放棄してしまったのならば、伝え手は、どう振舞おうとするだろうか。

危惧されるのは、受け手側が、事実や真実によりどこを求めるのではなく、感情による一体化ができる情報だけを取り込むようになると、メディアもその受け手の感情に寄り添うように、受け手の共感を得やすい情報を積極的に流すようになることだ。それは視聴率や読者の増加につながる。そうなる¹¹と、その感情に乘れない人にまで同調圧力

をかけて、感情の一体化さえ促してしまうことにもつながる。

社会が分断され、加えて財政難と低成長にも直面するなか、課題が互いに絡み合い、課題解決に向けた合意形成はますます難しくなっている。そして急速に進む技術革新によって、ますます時代の流れに個人が翻弄されるなか、一人ひとりが将来を考え、自分の生き方を選択していくことが困難になっているようにも思える。しかし、だからこそ

長期的で多角的な情報を得て、自分の置かれた状況を俯瞰¹²することが必要であり、多くの課題解決を目指した社会的合意形成に向けた対話に積極的に参加していかななくてはならない時代なのだ。その必要に込めて、異質なものの提示¹²、多様性の提示¹²というメディアの役割は一層重要になっているはずだ。

今後は、憲法改正¹²について、社会的対話が必要になるかもしれない。しかしポスト真実の状況がこのまま拡がっていくとしたら、そのようななかでは、本来求められる憲法についての社会的対話、熟議は行われようもないのではないだろうか。

15

10

5

10 メディア・リテラシー
テレビ番組や新聞記事など、メディアからのメッセージを主体的・批判的に読み解く能力。「リテラシー」は、読み書きのための能力。「英語」
media literacy

11 同調圧力 少数意見をも

つ者に対して、周囲の大多数の意見に従って行動するよう、暗黙のうちに強制すること。

12 憲法改正 成文憲法に修正・追加・削除などの変更を加えること。日本国憲法第九六条では、憲法改正の要件として、衆参各院で総議員の三分の二以上の賛成で発議し、国民投票で過半数が賛成することと定めている。
(放棄) (危惧) (翻弄)
(俯瞰) (熟議)

……ポスト真実時代のジャーナリズム

第7章 伝えること、受け止めること……

重要語句

覚えておきたい熟語や成句・慣用句は見開きごとに整理。

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

課題

教材冒頭の「視点」に対応して、各教材を通じて身につけたい課題を示しました。

学習の手引き

「課題」「言語活動」「確認」「重要漢字」で構成しました。

主な著作

著者紹介の末尾には、より深く学びたい生徒のために、著者の代表的著作を紹介して、読書活動に配慮しました。

言語活動

教材を手掛かりにして、教室で実践できる「言語活動」を提示しました。

言語活動

- 1 SNSの投稿やネット上のニュース記事から、あなたにとって「自分の感情に沿ったもの」と「異質なもの」とに分けてみよう。
- 2 数人のグループになり、①で集めた情報の中から、真実・事実と見なせるものを抜き出してみよう。またなぜそれを真実・事実と判断したのか、基準について話し合おう。
- 3 社会的な話題を一つ取り上げて、それについてのさまざまな考え方の情報を集め、あなた自身とは異なる考えを持つ人の立場に立って主張を書いてみよう。

話す
聞く
学習

〈課題〉 自他のことばを見つめ直してみよう

メディア・リテラシーを考える時、これまでは情報の選び方や解釈の仕方といった「受信者側」の能力に焦点が当てられてきた。しかしインターネットやSNSの発展によって、今や「発信者側」の資質も問われる時代となった。受信した情報が事実なのか解釈なのか、あるいは感情に過ぎないのかを弁別することは簡単ではない。自分が発信する情報についても同じことがいえる。自他のことばや価値観を見つめ直し、筆者の願う「社会的対話」への第一歩を踏み出そう。

確認

1. 「ポスト真実の時代」(二五四・12)とはどのような時代か、「情報の分断」(二五五・9)と「社会の分断」(二五六・7)ということばを用いてまとめなさい。
2. 「受け手自身が、真実や事実にこだわることを放棄してしまった」(一五六・11)ら、情報の伝え手はどのように変化すると筆者は考えているか、説明しなさい。
3. 「社会的合意形成に向けた対話」(一五七・8)において、筆者はメディアにどのような役割を期待しているか、説明しなさい。

重要漢字

154 撃(迎撃)	154 載(搭載)	155 排(排出)
155 偏(偏重)	156 惧(憂惧)	157 促(促進)
157 絡(短絡)	157 翻(翻訳)	157 弄(嘲弄)

……ポスト真実時代のジャーナリズム

重要漢字

本文中の常用漢字から、学ぶべき漢字を選び、本文中で使われた熟語以外の語を示しました。

確認

教材の理解に役立つポイントを、問いの形式で示しました。



国谷裕子 一九五七(昭和三二)年。ニユースキャスター。大阪府に生まれた。一九九三年から一〇年以上にわたって、NHKの報道番組「クローズアップ現代」のメインキャスターを務めた。この文章は「世界思想」二〇一八年春号所収の文章をもとに、新たに書き下ろされた。
❖主な著書 『キャスターという仕事』『国谷裕子と考えるSDGsがわかる本』など。

「クローズアップ現代」のキャスターを辞めたとき、寄せられたお手紙に予想以上に多かったのは、「見ていてすっきりしないことで、かえって考えさせられた。」「ざらざらしていて分かりにくい。でもそれが良かった。」という意見だった。見終わったあと、分からないことが残っているほうが新鮮だったというのだ。こういう感想を読んで、私はむしろ嬉しく思った。いまは、なんでも、分かりましたという顔をしていなくてはない風潮があるが、分からないものは分からないとして、もやもやが残ったほうがいいのではないだろうか。なにかがおかしい、なにか腑に落ちないの思い、そこから疑問が生まれ、問いを発していくことで社会的対話が生まれるのではないかと思う。異質なものを、自分とは異なる人や思想に出会う場として、メディアやジャーナリズムは、今後も機能してほしい。そして、そこから多くの問いが生まれ、社会的対話が活発に行われることを強く願う。


*腑に落ちない

13 「クローズアップ現代」一九九三年から二〇一六年までNHK(日本放送協会)で放送されていた報道番組。筆者がキャスターを務め、さまざまな社会問題を扱った。

第7章 伝えること、受け止めること……

詩人ならではの定義で「会話」と「対話」の違いを指摘し、私たちに必要なものはなにかを問う評論。

会話と対話

長田 弘 

視座 話し合いにはどのような種類があるのか。会話と対話の違いを参考に、目的や状況に応じた話し合いの仕方や心構えについて考えよう。

会話という言葉があり、会話にとっても似た言葉に、対話という言葉があります。よく似ていて、おなじように見える言葉ですが、たとえば英会話と言っても英対話とは言わない。また逆に、たとえば日米対話というような言い方をするような場合、対話を会話と言い代えることはできない。一見おなじように見えて、意味の方向はむしろ逆を向いていると言っているのが、会話と対話です。

1 コミュニケーションの手段が電話を核として多様になったいま、さまざまなレベルで、会話のかたちはずっと豊富になりました。けれども、対話はどうか。会話のかたちが思いがけないほど豊富になったそのぶん、わたしたちのあいだの対話のありようというのは、むしろ貧しくなったのではないかと気づかわれます。

そういうときに思いだしたい一冊の本があります。二〇世紀という時代が始まる明治三〇年ごろ、老いてなお意気さかな勝海舟が、語り尽くした『氷川清話』です。

『氷川清話』は、勝海舟が話した言葉を聞き書きした本ですが、勝海舟の語る言葉は当時たいへんな人気で、勝海舟のもとを訪ねた記者の手で、いろいろな新聞が争ってその

- 1 コミュニケーション 互いに意思や感情・思考を伝達し合うこと。【英語】communication
- 2 レベル 水準。段階。【英語】level
- 3 勝海舟 一八二三（文政六）—一九九（明治三二）年。幕末・明治時代の政治家。幕府の陸軍総裁と

第7章 伝えること、受け止めること……




link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。

漢字による熟語のイメージの広がりを用いて、自由な発想で世界を捉えた評論。

瓦を解かないこと

堀江敏幸 

視座 「解」や「瓦」という語からイメージがどんどん広がり、話題と主張をともなって成長していくさまを読み取る。

いたるところが壊れかけている。海の底が軋んで地表を揺らし、空と海が一体となって荒れ狂い、大気を広範囲にかき乱す。遠い極地では巨大な氷が溶け出して水位を押し上げ、大陸では河川が氾濫して町を襲う。自然現象ばかりではない。こんな小さな国で営まれている日々の暮らしの、極私的な場においても、なにがあってもぶれてはならない政のような公の場においても、守りつづけるべき大きな軸がゆがみ、狂いはじめていく。

崩壊、決壊、倒壊、圧壊、損壊。自然のなかの破れをあらわす言葉はいくらもある。しかしこのところなぜか胸に響いてくるのは、おなじ「カイ」でも「壊」ではなく「解」を用いた動詞のほうだ。まとまっているものを、結ばれているものを、ほどこ。縫いあわせたものを、ばらす。髪に櫛をいれて、整える。禁止された状態を元にもどし、人の気持ちをやわらげ、解を、答えを導く。破壊の「壊」が一拳に崩れる巨大なエネルギーを感じさせるのに対し、「解」は右のごとく、固いものを少しずつほぐしていく時間の経過と過程を意識させてくれる。結果として崩壊にまで達するとしても、そこへ到

- 1 瓦 粘土を固めて窯で焼いたもの。主に屋根を葺くのに用いる。鬼瓦・丸瓦・平瓦・敷平瓦など種類が多い。近年はセメントや金属を材料にしたもの

第8章 表現のみがき方……

国語の力を大きく成長させる随想的な評論文です。

すべての単元の末尾に、「話す・聞く」「書く」「読む」「三領域の言語活動例として、「実践」を掲載。「主体的・対話的で深い学び」に役立ちます。具体的な手順を「レッスン」や「活動例」「発展」として示しました。



実践：宣伝のこぼれ——ポップ・広告

すぐれた広告やポスターには、見る者を引きつけるために、さまざまな表現の工夫が凝らされている。実際の例に学びながら、自由にアイデアをふくらませてみよう。

レッスン

好きな本の広告を作ってみよう

- ① 必要な情報を整理する——その本やマンガについてアピールしたい事柄を、簡条書きなどのできるだけ多く書き出してみよう。
- ② 効果的なキャッチコピーを考える——①の内容を簡潔で力強い言いまわしで表現してみよう。
- ③ デザインやレイアウトを工夫する——イメージに合わせた写真やイラストを使ったり、文字の書体や配置などを工夫したりすることで、受け手の印象に残るデザインを考えてみよう。

アドバイス

・新聞や雑誌などに掲げられた広告から特に印象に残

ったものを集め、どんな表現の工夫がなされているか、話し合ってみよう。

・キャッチコピーを考える際には、対比（古くて新しい）やリズム（安、近、短）など、つい口に出したくなる表現を使うと効果的である。

・写真やイラストを用いる際には、著作権などの権利を侵害しないよう注意しよう。

・できあがった広告について、実態とあまりにかけ離れた内容になっていないか、多くの人の目に触れる表現として問題がないか、確認しておこう。

・学校図書館と協力して、できあがった広告と本とを組み合わせる展示会を開いてもよいだろう。

活動例



【参考】街の書店などでは、イラストなどを組み合わせたカラフルな手作りのポップ広告がよく見られる。作成者の個性が伝わる親しみやすい表現に注目してみよう。

3/8は国際女性デー——友だちへ、家族へ、パートナーへ、この物語を贈ろう

10代から60代まで反響の声が殺到！
「これは、私の物語だ」

『友だち100人 本当に必要?』の著者である、10代から60代まで反響の声が殺到した。これは、私の物語だ。10代から60代まで反響の声が殺到した。これは、私の物語だ。10代から60代まで反響の声が殺到した。これは、私の物語だ。

著者：キム・ジョン、キム・ナムジュ 著 斎藤真理子 訳

【参考】文字だけでもインパクトのある広告を作ることができる。読者の感想を列挙し、物語に自分を重ねて共感した読者が数多くいたことを表現している。

活動例

本の「ポップ」は、実際に刊行された書籍をもとに高校生に募集して作られたものです。まさに実用的な「実践」です。

活動例

高校生や読者から寄せられたコメントをもとに筑摩書房が実際に書店店頭用に作成したパネルです。

◎要約作成のポイント

「第3章 ことばで伝える思いと考え」の末尾で、評論を読むにあたって必須の「要約作成」について、解説しました。

要約作成のポイント

1 要約とは何か

要約とは、その文章の論旨を圧縮し、短い文字数で表現したものである。評論文や論説文、企業における企画書、あるいは法的な契約書など、どのような文章を読む場合であっても、その文章の全体的な論旨を把握する力は欠かせない。その力をつけるための作業が、要約作成である。

巧みな要約を行うには、文章の構成はどうなっているのか、序論・本論・結論の流れ（骨格）をつかみ、筆者がもっとも主張したいことと主眼だけを抽出することが必要だ。「例示」や主張の「言い換え」など、筆者の主題に対する「肉づけ」に過ぎない不要な要素は切り捨て、核となる部分だけをまとめる力を鍛えよう。

巧みに要約された論旨は、自分の考えを書き表す時の素材として活かすことができる。要約はいわば論述の模型作りであり、私たちの思考の型を多様にすることもつながるのだ。要約でつかんだ構成のパターンを忘れないようにしよう。

◆必要な部分を抽出しよう

- 例示 …… 主張を補強するための具体例や引用。
- 紹介 …… 筆者と異なる意見の紹介・反論。
- 補足 …… 主題についての、補足的な言及。
- 言い換え …… 理解を促すための主張の再説明・比喩やくり返しなど。

「デジタル社会」(三七ページ)

デジタル社会の性格を根底から規定していること。それは、一言でいえば、情報のデジタル化、つまりは、情報の「脱」物質化であるといつてよいだろう。このデジタル時代になって、情報は歴史上初めてその質料性から解放された。

従来、たとえば文字情報は、石、巻物のパピルス、羊皮紙、紙に刻まれることによってしか成立しえなかった。情報は、物質的な容れ物を必然的に必要としたのである。しかし、マルチ・メディア技術、すなわち（あらゆる情報の電子テキスト化）は

例示 言い換え 主題文

……要約作成のポイント

◎読書案内

「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの領域について、より深く学ぶために役立つ書籍を紹介しました。

読書案内……読む

思考を鍛える

社会や科学・思想等をさまざまな観点で捉え、論じている書籍を紹介する。深い思索内容と、それを伝える緻密で論理的な文章に真摯に向き合うことで、思考力を鍛え、多様な関心を育てよう。



『はじめての構造主義』(橋爪大三郎) 現代思想の入門書として定評のある書籍。構造主義をその発想のもとになった事柄までさかのぼり、明晰に語る。



『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一) 生命とは何か。分子生物学がたどりついた「動的平衡」という生命観を、読みやすい文章で描き出す。



『哲学入門』(戸田山和久) 単なる哲学思想や哲学者の紹介ではなく、科学が明らかにした世界像の中で人間とは何かを探究する、著者の生きた哲学が語られる。



『多数決を疑う』(坂井豊貴) 多数決の問題点を指摘し、人々の意思をよりよく集約する方法を、近年の事例も紹介しつつ考察する。



『たったひとつの「真実」なんてない』(森達也) メディアは何を伝えていのか? (森達也) メディアとはどんなもので、どうすれば正しく使えるのかを探る。



『ロウソクの科学』(マイケル・ファラデー) 英国王立研究所でのクリスマス・レクチャーを編集したもの。多くの科学者に科学への目を開かせた名著。



『エコ・ロゴス』(雑賀恵子) 存在と食について(雑賀恵子) 人間が生きていくうえで、「食べる」との意味とは何か。深い思索のもとにその本質を描き出す。

第6章 根拠から主張へ……

言語文化

改訂版

言文143-902 / A5判・320頁

◎古典(古文・漢文)は、定番教材を中心に据え、古典を学ぼうえでの基本を重視しています。
 ◎日本の「言語文化」を、古文・漢文から近現代まで一貫して学べるように工夫し、とりわけ文学作品を通して、表現の共通点と相違点を具体的に理解できる教材を選定しました。

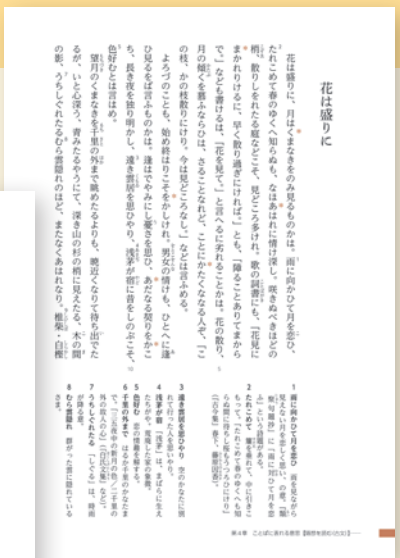
教材の特徴

- ① 古文教材は、散文25本、韻文6本。漢文教材は、散文14本、韻文10本。現代文教材は、散文8本(小説3本・随想4本・評論1本)、韻文9本。
- ② 入門教材は丁寧な解説。(古文入門・漢文入門)
- ③ 古典から現代への流れを自然に理解できるよう、古典編から現代文編への橋渡しとなる章「日本語の変遷」(第13章)を置きました。
- ④ 現代文編では、近代小説から現代小説まで、幅広く扱っています。

授業を支える工夫

- ① 古文編・漢文編・現代文編と、授業を構成しやすい3つのブロック。
- ② 学びの見通しを立てるために役立つ「単元の目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ③ 言語文化をよりよく理解するための探究活動例として、「実践」をすべての単元の末尾に掲載。
- ④ 言語文化の世界を広げる比べ読みを随所に掲載しました。
- ⑤ 古文・漢文の理解に役立つコラム(古典文法の窓・訓読のきまり・送り仮名のきまりなど)や、付録(古語の理解・漢文句法一覽)が充実。
- ⑥ 付録に「装束」「調度」「中国の文化」「暦法」など、授業で使えるカラー図版を掲載。

「文学」の普遍性を学ぶ授業例

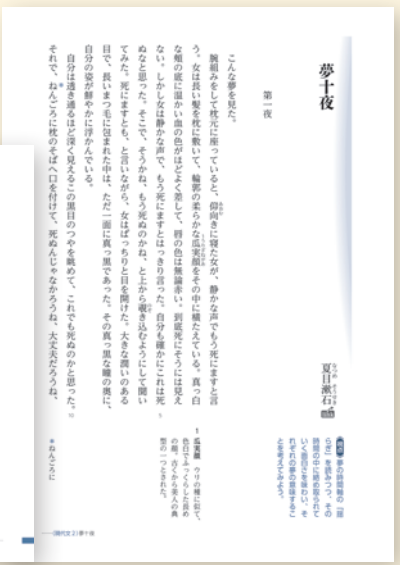


【徒然草】／【参考】玉勝間
 古典作品の著者の批評精神を読み取り、現代を生きる私たちの心にも訴えかける文学の力を学びます。

『羅生門』(芥川龍之介)
 『今昔物語集』を翻案して、平安時代を舞台にしながら、現代人にも通じる葛藤を見事に描いたその手腕を学びます。



『夢十夜』(夏目漱石)
 漱石の『夢十夜』がいまなお色褪せぬ魅力をたたえているのは、真の文学が時代を超えた人の普遍性を描いているからでしょう。同じく普遍的な作品「莊子の『胡蝶の夢』と合わせて読み、文学の力を実感します。



言語文化 改訂版 編集委員	
安藤 宏	東京大学名誉教授
井島正博	東京大学名誉教授
大橋賢一	北海道教育大学旭川校教授
紅野謙介	日本大学名誉教授
五味淵典嗣	早稲田大学教授
清水良典	文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授
関口隆一	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
高田祐彦	青山学院大学教授
橘 直弥	灘中学校・高等学校教諭
千野浩一	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
仲島ひとみ	武蔵野大学特任教授
三上英司	山形大学教授
吉田 光	郁文館中学校・高等学校教諭
吉田幹生	成蹊大学教授

言語文化 改訂版〈古文〉

目次

◎ 古文は散文28本、韻文7本。
◎ ベーシックな教材を過不足なく掲載。

言葉の力 大岡 信……11

目次 古文

第1章 古文への扉 古文入門

- 古文を学ぶために……18
- 児のそら寝 宇治拾遺物語……19
 - 古典文法の窓1 歴史的仮名遣い……22
 - 大納言顕雅卿 十訓抄……24
 - 古典文法の窓2 品詞の分類……26
 - 絵仏師良秀 宇治拾遺物語……27
 - 大江山 十訓抄……30
 - 古典文法の窓3 用言の活用/音便……32
- 実践「構成」を意識して 作品への理解を深めよう……34

古文を身近なものとする「実践」を豊富に収録。

第2章 人間の普遍的な姿 物語を読む

- 竹取物語 かぐや姫誕生……36
- かぐや姫の昇天……39
- 伊勢物語 芥川……45/東下り……47
- 筒井筒……50/梓弓……53
- 古典文法の窓4 係り結びの法則/「ば」の用法……55
- 実践 当時の文化に注目しよう……56

第3章 自分という他者 日記を読む

- 土佐日記 門出……58
- 亡き児をしのぶ 60
- 帰京……61
- 更級日記 東路の道の果て……64
- をかしげなる猫……66
- 古典文法の窓5 助動詞……68
- 実践 一人称で語ってみよう……70

第4章 ことばに表れる意思 随想を読む(古文)

- 徒然草 つれづれなるままに……72
- 丹波に出雲といふ所あり……73
- ある人、弓射ることを習ふに……75
- 名を聞くより、やがて面影は……77
- 花は盛りに……78
- 〔参考〕兼好法師が詞のあげつらひ(玉勝間)……81
- 方丈記 ゆく河の流れ……82/〔参考〕歎逝賦……84
- 飯の庵……85
- 古典文法の窓6 助詞……87
- 実践 作者のものの見方を理解しよう……88

第6章 韻文の表現(一) 和歌・俳諧を鑑賞する

- 和歌 万葉集……108
- 古今和歌集……112
- 新古今和歌集……116
- 奥の細道 序……119/白河の関……121
- 立石寺……122
- 古典文法の窓8 和歌・俳諧の修辭……124
- 実践 韻文を鑑賞する力を磨こう……126

第5章 転換期の文体と行動 軍記を読む

- 平家物語 木曾の最期……90
- 古典文法の窓7 敬語法……97
- 転換期の文学——『平家物語』の魅力 兵藤裕己……98
- 和漢混交文と漢字仮名交じり文……105
- 実践 体験を通して古典文化の理解を深めよう……106

第7章 練り上げられた思考 評論を読む

- 正徹物語 待つ恋……128
- 玉勝間 いにしへよりも 後世のまされること……130
- まぎらわしい語の区別……132
- 古典文法の窓9
- 実践 古文の魅力を 小論文にまとめてみよう……133
- 読書案内(古典編)……134

古文の理解を深めるコラム。

比べ読みに最適な【参考】教材。

傍訳つきで丁寧な導入。

目次：漢文

第8章 漢文への扉 漢文入門 読む

漢文を学ぶ意義や、訓読のきまりを丁寧に解説。

- 漢文を学ぶために……………136
- 主な助字(置き字)・返読文字・再読文字……………144
- 送り仮名のきまり……………148
- 憲法十七条 日本書紀……………150
- 実践 「書き下し」という手法で、
ことばの構造を考えよう……………152

第9章 漢語の特色 読む

- 故事成語を読む……………154
- 守_レ株 韓非子……………154
- 推敲 唐詩紀事……………155
- 借_二虎威_一 戦国策……………156
- 漁父之利 戦国策……………158
- 塞翁馬 淮南子……………160
- 実践 ことばが創られる過程に触れよう……………162

第10章 言動に表れる人間の本质 読む

漢文を身近なものとする「実践」を豊富に収録。

- 史伝を読む……………164
- 管鮑之交 十八史略……………164
- 刺客荆軻 十八史略……………167
- 死諸葛走_二生仲達_一 十八史略……………171
- 那須宗高 日本外史……………174
- 〔参考〕那須与一(平家物語)……………175
- 実践 記録から人物像を
具体的に把握しよう……………176

第11章 韻文の表現(二) 書く

漢文学習に必要な知識をまとめたコラム。

- 唐詩を翻案する……………178
- 登_二鶴鵲楼_一 王之涣……………178
- 鹿柴 王維……………179
- 秋風引 劉禹錫……………179
- 江雪 柳宗元……………179
- 涼州詞 王翰……………180
- 望_二廬山瀑布_一 李白……………180
- 江南春 杜牧……………180
- 漢詩のきまり1……………181
- 過_二故人莊_一 孟浩然……………182
- 登_二岳陽楼_一 杜甫……………182
- 香炉峰下、新卜_二山居_一、
草堂初成、偶_二題_二東壁_一 白居易……………183
- 漢詩のきまり2……………185
- 〔参考〕雪のいと高う降りたるを(枕草子)……………186
- 実践 翻案を通じて、自分の思いを伝えよう……………187

第12章 読みつがれることば 読む

同じ故事成語を二つの出典で比べ読み。新しい試みです。

- 中国古典思想を読む……………190
- 論語 孔子の説く「知」と「政」……………190
- 老子 老子の説く「知」と「政」……………195
- 朝三暮四(二編) 列子・莊子……………198
- 雑説 唐宋八家文読本 韓愈……………200
- 実践 表現の特徴を読み取ろう……………202

言語文化 改訂版〈現代文〉

目次

◎ 現代文教材は、小説3本、随想4本、
韻文9本。
◎ 定番から現代的なテーマの作品まで
バラエティ豊かな教材をセレクト。

目次：現代文

第14章 想像力がひらく世界 小説を読む

【定番】 羅生門 芥川龍之介……218

【参考】 羅城門の上層に登りて

死人を見る盗人の語(今昔物語集)……230

【定番】 夢十夜 夏目漱石……231

【参考】 胡蝶之夢 莊子……240

【定番】 待ち伏せ ティム・オプライエン

村上春樹訳……241

【参考】 Ambush(抜粋) Tim O'Brien……249

【実践】 原典と小説を読み比べて、

表現の違いについて考えてみよう……250

第13章 日本語の変遷 近代語の成立を知る

近代語の成立……204

近代文学の文体……209

余が言文一致の由来 二葉亭四迷……212

【実践】 「話しことば」と「書きことば」の

違いを意識してみよう……216

古語から近代語への変遷についての理解を助ける章を設けました。

翻訳文学には原文を一部掲載。読み比べて
翻訳文学への理解を深めます。

第15章 多彩な表現とイメージ

随想を読む(現代) 読む

なぜ日本語で書くのか リービ英雄……252

虹の雌雄 蜂飼 耳……258

物語る声を求めて 津島佑子……263

【実践】 近現代の文章には

どのようなジャンルがあるのか調べよう……270

第16章 韻文の表現(三) 詩歌を作る

小諸なる古城のほとり 島崎藤村……272

落葉 ポール・ヴェルレーヌ／上田 敏訳……274

竹 萩原朔太郎……276

樹下の二人 高村光太郎……277

二十億光年の孤独 谷川俊太郎……280

崖 石垣りん……282

I was born 吉野 弘……284

短歌……288／俳句……291

【実践】 詩歌を通して表現力を磨こう……295

読書案内(現代文編)……296

カラー図版満載のミニ便覧。

付録

古典常識

装束……298

乗り物……299

住居・調度……300

中国の文化……301

暦法……302

古典文法要覧……304

古語の理解……308

日本文学史……312

中国文化史……316

主な漢文句法……318

◎紙面の紹介(古文)

古文では、1年生にふさわしい基礎的な作品を中心に掲載しました。

徒然草

つれづれなるままに

*つれづれなるままに、日くらし、すずりに向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

(序段)

兼好



視点 思考の多面性や柔軟性に注目しながら、作者の人間や自然に対する見方・感じ方を読み味わおう。

1 よしなしごと これという意味もないこと。

*つれづれなり *あやし
*ものぐるほし

学習の手引き

「理解・表現」の二項目に分けて、本文の理解を助けます。

- 理解 (1)本文中から、次の問いの答えに相当する部分を抜き出しなさい。
①文章を書くきっかけは何か。 ②何を書くのか。 ③どのような態度で書くのか。
- 表現 (1)「アここはかとなく書きつくれば」(七二・二)を、「書きつくれ」の活用形に注意して現代語に訳しなさい。
(2)形容詞「あやし」の活用をすべて書き出して、ウ音便形「あやしう」(七二・二)のもとの形を確認しなさい。

重要古語

古文の重要語を本文中に*印で示し、見開きごとに整理しました。

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

◎紙面の紹介(漢文)

漢文教材は、理解を助けるさまざまな工夫をこらしています。

借虎威

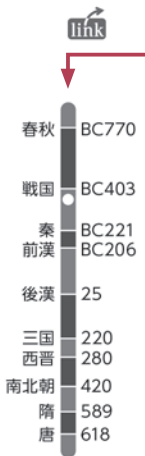
旧字体

常用漢字体と旧字体(正字)の字面が異なる場合には、初出に旧字体を示しました。

虎求百獸而食之、
 得狐。狐曰：「子無敢食
 我也。天帝使我長百
 獸。今子食我，是逆天
 帝命也。子以我为不
 信，吾為子先行。子
 後，觀百獸之見我，而
 敢不走乎？」虎以為
 然。故遂與之。行。獸見之，皆走。虎不知獸畏



虎形裝飾金具(前漢時代)



第9章 漢語の特色【故事成語を読む】……

年表

作品の書かれた時代を年表で分かりやすく示しました。

- 1 子 あなた。
- 2 天帝 天の神。

「狐が「是逆天帝命也」と言ったのはなぜか。

- 3 走 逃げる。
- 4 然 その通り。
- 5 遂 ここは、そのまま、の意。

脚問

文脈を理解する上でポイントとなる部分は簡潔な脚問を通して確認。

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

羅生門

芥川龍之介

【視点】時・場所・人物などの基本的な設定を押さえよう。比喻や情景描写にも注意しながら「下人」の心情を読み取ろう。

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗りの剥げた、大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかに、雨やみをする市女笠や揉鳥帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかに誰もいない。

なぜかという、この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いがつづいて起こった。そこで洛中のさびれ方は一通りではない。旧記によると、佛像や仏具を打ち砕いて、その丹がついたり、金銀の箔がついたりした木を、道ばたに積み重ねて、薪の料に売っていたということがある。洛中がその始末であるから、羅生門の修理などは、もとより誰も捨てて顧みる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない死人を、この門へ持ってきて、棄てていくという習慣さえできた。そこで、日の目が見えなくなると、誰でも気味を悪がって、この門の近所へは足ぶみをしないことになってしま



羅生門復元模型

ったのである。その代わりまた鴉がどこからか、たくさん集まってきた。昼間見ると、その鴉が、何羽となく輪を描いて、高い鷗尾のまわりを啼きながら、飛びまわっている。殊に門の上の空が、夕焼けであかくなる時には、それが胡麻をまいたように、はつきり見えた。鴉は、もちろん、門の上にある死人の肉を、啄みにくるのである。——もつとも今日は、刻限が遅いせい、一羽も見えない。ただ、所々、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草のはえた石段の上に、鴉の糞が、点々と白くこびりついているのが見える。下人は七段ある石段のいちばん上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、右の頬にできた、大きなきびを気にしながら、ぼ

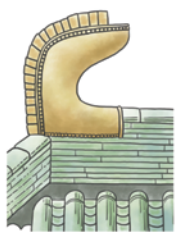
- 1 下人 身分の低い者。
- 2 羅生門 平安京の正門で、朱雀大路の南端にあった楼門。正しくは羅城門。
- 3 丹塗り 赤色または朱色で塗ること。
- 4 蟋蟀 現在のコオロギ。
- 5 朱雀大路 平安京の中央を南北に貫通する大路。
- 6 市女笠 中央が高く縁が広い菅笠。もと市女(市でものを売る女)が用いた。ここでは、それをかぶった女。



- 7 揉鳥帽子 主に庶民が用いた柔らかく作った鳥帽子。ここでは、それをかぶった男。



- 8 辻風 つむじ風。
- 9 洛中 京の町中。都の中。旧記 古い記録。鴨長明の『方丈記』に、同内容のことが書かれている。
- 11 鷗尾 宮殿などの棟の両端に取り付ける鳥または魚の尾の形をした飾り。



- 12 襖「狩衣」に裏をつけ たもの。庶民の普段着。二九八ページを参照。

……(現代文2)羅生門

第14章 想像力がひろく世界【小説を読む】……

link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

参考

『羅生門』の比べ読み教材として、『今昔物語集』から、小説のもととなった説話を掲載しました。

【参考】 羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語

〔今昔物語集〕

今は昔、摂津の国の辺より、盗みせむがために京に上りける男の、日のいまだ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人しげくありきければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層にやはらかかつり登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。盗人、「怪し。」と思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の、死にて臥したるあり。その枕上に火をともし、年いみじく老いたる嫗の、白髪白きが、その死人の枕上にあて、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人これを見るに、心も得ねば、「これはもし鬼にやあらむ。」と思ひておそろしけれども、「もし死人にてもぞある、おどして試みむ。」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、「己は、己は。」と言ひて走り寄りければ、嫗、手まどひをして、手を摺りてまどへば、盗人、「こは何ぞの嫗のかくはしるたるぞ。」と問ひければ、嫗、「己が主にておはしましつる人の失せたまへるを、あつかふ人のなければ、かくて置きたてまつりたるなり。その御髪の長に余りて長ければ、それを抜き取りて髪にせむとて抜くなり。助けたまへ。」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と嫗の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走りて逃げて去りにけり。さてその上の層には死人の骸骨ぞ多かりける。死にたるひとの、葬りなどえせぬをば、この門の上ぞ置きける。

このことは、その盗人の人に語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたるや。

(巻二十九第十八)

15

- 1 摂津の国 大阪府北西部と兵庫県南東部の古い国名。「せつ」。
- 2 朱雀 朱雀大路。
- 3 山城 京都府南部の古い国名。ここでは、都の外、羅城門の南側をさす。
- 4 やはらかかつり登りたりけるに そつとよじ登ったところ。
- 5 連子 縦または横に細木や竹を打ち付けた窓。
- 6 心も得ねば 納得がいかない。
- 7 鬼 当時、羅城門には鬼が住むと考えられていた。
- 8 死人 ここでは、死者の霊、の意か。
- 9 手まどひ うろたえて、思うように手が使えないこと。慌てふためくこと。
- 10 長に余りて長ければ 背丈以上に長いので。
- 11 葬りなどえせぬ 葬儀などできない死者。

◎ 参考

言語文化の広がりや深さを実感するのに最適な参考教材を適宜配置しました。

重要漢字

本文中の常用漢字より、重要な漢字は、教材ごとに整理。

224 塞 (閉塞)	225 罵 (罵倒)	226 喉 (喉元)	226 凡 (凡庸)	226 蔑 (輕蔑)	226 蛇 (蛇口)	227 嘲 (嘲笑)	228 蹴 (一蹴)
221 肯 (首肯)	221 憂 (憂鬱)	222 濁 (濁流)	222 隅 (片隅)	223 臭 (惡臭)	223 挿 (挿入)	224 弊 (弊害)	224 股 (股間)
218 剝 (剝離)	218 震 (震源)	218 碎 (粉碎)	218 盜 (盜賊)	219 遲 (遲刻)	219 紺 (濃紺)	220 闇 (暗闇)	221 飢 (飢餓)

- ①「下人」の行方は、誰も知らない。」(二二八・10) という結びにはどのような意味や効果があるか、説明しなさい。
- ②「下人」「老婆」の境遇。◎舞台となっている場所。
- ③全体を四つの場面に分け、「下人」の心理の移り変わりを整理しなさい。
- ④「老婆」の主張の要点を二つ挙げなさい。

学習の手引き

「理解・表現」の二項目に分けて、本文の理解を助けます。

理解

- (1) 次の項目を整理し、物語の設定を確認しなさい。
 - ③時代・季節・時間帯。
 - ④「下人」「老婆」の境遇。
- ◎舞台となっている場所。
- (2) 全体を四つの場面に分け、「下人」の心理の移り変わりを整理しなさい。
- (3) 「老婆」の主張の要点を二つ挙げなさい。
- (4) 「下人の行方は、誰も知らない。」(二二八・10) という結びにはどのような意味や効果があるか、説明しなさい。

表現

- (1) 羅生門の下で雨やみを待っている「下人」は、洛中・洛外のどちらからやって来て、どちらへ行ったと考えられるか、発表してみよう。
- (2) このあとの「下人」の行方と行動を想像して、続編のあらすじを二〇〇字以内で書いてみよう。

読解の窓

古典と近代文学

芥川龍之介の小説は『今昔物語集』『宇治拾遺物語』などの古典をもとに書かれているものが少なくない。日本の古典文学にとどまらず、中国の古典をもとにした「杜子春」など、作品の典拠は幅広い。芥川の他にも森鷗外・中島敦・坂口安吾・円地文子など、古典をもとに自らの創作を繰り広げた作家はたくさんいる。太宰治の『新釈諸国断』は井原西鶴、三島由紀夫の『近代能楽集』は能や歌舞伎などの作品を典拠にしている。「羅生門」の典拠は『今昔物語集』の「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」(二三〇ページ)であるが、「太刀帯陣売魚嫗語」の内容も一部交え、またそれら原典に大きなアレンジが加えられている。芥川が力点を置いたのは、老婆の自己正当化の論理に触発され、ついに盗人となる下人の心理変化である。芥川は古典を近代的な心理小説として脚色することによって近代小説の一ページを開いたのである。古いものが新しいものを生み出すきっかけとなる。近代文学と古典を読み比べながら、両方を味わってほしい。

読解の窓

現代文編では学習に必要な知識や、主体的・対話的で深い学びへと誘う解説を掲載しました。

現代の随想として、日本語を母語としないけれども、日本語で執筆する作家の、日本文学をめぐる考察を掲載。ことばについて、視野を大きくひろげてくれます。

なぜ日本語で書くのか

リービ英雄 ひでお

「群像」¹にはじめて小説を発表してから、さまざまな反応を受けた。褒める人もいれば批判する人もいた。批判の中には納得しづらいものもあれば鋭い指摘をしてくれると感じたものもあった。新人ならほとんど誰でも経験することだろう。

ただ、ぼくの場合は一つだけ、おそらく他の新人が訊かれなくて済むような質問に直面しなければならなかった。なぜ「母国語」である英語じゃなくて、わざわざ「外国語」である日本語で小説を書いたのか、という質問だった。

実に返事に困る質問なのだ。しかし、返事に困るからといって、たとえば二昔前のニューヨークで日本人ピアニストがコンサートを開いたときに「なぜゴトじゃなくてわざわざピアノを弾くのか。」と聞かれたような意地の悪い質問だとは決して思っていない。「なぜ日本語で書くのか。」という問いに対して、日本語は美しい、フランス語なんかは問題にならない、日本語で書きたくなるのは当然じゃないか、と即座に答えたくなかった。人種も国籍も関係ない、だってポーランド人として生まれたコンラッドもかれにとつては「外国語」であった英語で書いたじゃないか、とも言いたくなくなった。

1 「群像」一九四六年創刊の文芸雑誌。
2 コト 琴。
3 ポーランド ヨーロッパ中部、バルト海南岸に面する共和国。公用語はポーランド語。Poland

文字、語彙、詩歌と、ことばからことばへ、豊かな発想がつなぐ随想の醍醐味が味わえる教材。

虹の雌雄

蜂飼 耳 はちかい

「昨日、虹が出ましたね。」
いわれて、返事に詰まったことがある。そうですか、気づかなかったです。小さく咳くほかなかった。残念という気持ちだが、むくり、むくりと雲のように育ちはじめる。大事な催し物を見逃したのだ。
「ずいぶん大きく掛かっていたのに。」

相手は、めずらしい植物の栽培にでも成功したかのように誇らしげな表情を浮かべた。やがて電車に乗り、ひとりになってから、おかしいな、と気がついた。あの人が住んでいるのは、となりの県だ。たとえ同じときに空を見上げていたとしても、遠すぎて見えなかっただろう。それなのに、相手も自分も、見えたはずだと思いつつ、言葉を重ねたのだった。つまらない結論を得て、ふらふらと坂道を下る。

あったかもしれない場面、を思い浮かべながら、道を下る。となりの県からはさすがに見えませんが、と、もし笑いながらそんなふうには否定していたら、どうだっただろう。相手は一瞬、押し黙り、目をぱちくりさせ、こちらのせりふの意味を考える。次の瞬間

視座 筆者が抱いた日常の小さな思いを読み取る。また、引用されたことばの語源や詩の効果を考えて、内容理解を深めよう。

1 何が「おかしい」のか。

「言語文化」という科目全体を見通すために、古典と現代文をつなぐ「言文一致」に関する章を設けました。

近代語の成立

話しことばと書きことば

本居宣長の「玉勝間」(二三〇ページ)が成立したのは、一七九三年から一八〇一年である。一方、夏目漱石が「夢十夜」(二三一ページ)を発表したのは一九〇八(明治四一)年であった。この間、およそ一〇〇年余り。読み比べてみると、用いられている日本語がまるで異なっている。話しことばは、口に出された瞬間に消えてしまう。その姿を変えていくものである。これに対して書きことばは、文

移り変わりに逆らって変化しにくい。これまで私たちが学んで平安時代中期に、話しことばをモデルとして成立した。その後第に大きくかけ離れていった。近代になると、この大きく隔たづける必要に迫られることになる。こうして、話しことば(言文一致)が成立することになった。この文体改革の流れ

言文一致以前

近世の出版物の大多数は漢文ないし和化漢文で書かれたものと儒教の研究・教育のためのもので、当時の知識階級の子弟の

近代文学の文体

【安愚楽鍋】(戯作)

苦しい算段にて求めたる袖時計の安物を様からはづしてときどき時を見るハそつちのけ、じつハほかのものへ見せかけなり。ただし頼ハきんのでんぶらと見えたり。隣に牛を食ひてゐる客に話をしかける。「モシあなたエ、牛ハ至極高味でござネ。この肉がひらけちゃアばたんや紅葉ハ食へやせん、こんな清潔なものをなせいままで食ハなかつたのでござせう。」

仮名垣魯文

【牡丹灯籠】(口述筆記)

毎もに異らず根津の清水の下から駒下駄の音高くカランコロンとすると、新三郎ハ心の裡で、ソラ来た和小さくかたまり、額から額へ懸けて汗を流し、一生懸命一心不乱に、雨宝陀羅尼經を誦して居ると、駒下駄の音が池垣の元でぱたり止まりましたから、新三郎ハ止せばいゝに念仏を唱へながら蚊帳を出て、窓と戸の節穴から覗いて見ると、毎時の通り牡丹花の灯籠を下げて米が先へ立ち、後ハ髪を文金の高髷に結び上げ、秋草色染の振袖に燃える様な緋縮緬の長襦袢、其の綺麗な事云ふばかりもなく、綺

三遊亭圓朝

- 1 きんのでんぶら 金メツキのこと。
- 2 ばたん イノシロ肉。
- 3 紅葉 鹿肉。
- 4 雨宝陀羅尼經 お経の一種。
- 5 文金の高髷 女性の髪型。
- 6 緋縮緬 濃く明るい赤色の縮緬物。
- 7 長襦袢 着物との間に着る下着。

……(現代文1)近代文学の文体

教科書編集委員による書き下ろし教材。言文一致について簡潔に説明しています。

◎実践

すべての単元の末尾に、「話す・聞く」「書く」「読む」「三領域の言語活動例として、「実践」を掲載。具体的な手順を「レッスン」や「活動例」「発展」として示しました。

読む 実践：作者のものの見方を理解しよう

現代まで読み継がれてきた古文に表れる作者の思想は、日本文化を知る上欠かせないものが多い。その思想に影響を与えた文章や、時には批判的な立場からの意見も併せて読むことで、作者のものの見方、考え方をより深く理解していこう。

比べ読もう 『徒然草』と『玉勝間』

- 「徒然草」は「花は盛りに」(二八ページ)の内容を本居宣長は「玉勝間」(兼好法師の詞のあげつらひ)八二ページで批判している。批判の内容をまとめて。
- 宣長が批判している部分について、兼好は「花は盛りに」の中でどのような主張をしていたか、正しく把握しよう。
- 「花は盛りに」の主張を踏まえて、兼好なら宣長にどのような反論を展開するか、想像して書いてみよう。

(四二ページ)と読み比べて、どのような点が似ているか指摘しよう。



第4章 ことばに表れる思想【国語を語る(古文)】……

読む 実践：原典と小説を読み比べて、表現の違いについて考えてみよう

「羅生門」は『今昔物語集』の一節が下敷きになっている。「夢十夜」は胡蝶の夢のように夢をモチーフに自由創作したものである。「待ち伏せ」は翻訳とはいえ、そこに日本語による表現のアレンジが加わっている。小説の「夢」がどのように出来ているかを知るためにも、それぞれを比較してみよう。

小説の仕組みを分解しよう

- 「羅生門」について
- 「羅生門」と「羅城門の上層に登りて死人を見る」人の語を比較し、異なる点を挙げてみよう。
- 「羅生門」を場面に分けて、設定や人物がどのような描かれているか、整理してみよう。
- 「夢十夜」について
- 「夢十夜」の中で見る「夢」にはどのような特徴があるか
- 「胡蝶の夢」を参考に「夢」の特殊性や効用について
- 「羅生門の上層に登りて死人を見る」人の語「胡蝶の夢」(ambushi)をもとに、自分ならではの小説を創作してみよう。

第14章 想像力が広がる世界【小説を語る】……

古文編

『徒然草』『花は盛りに』の参考として、『玉勝間』『兼好法師が詞のあげつらい』を掲載。比べ読みの具体的な手順を示しました。

漢文編

身近な故事成語を調べ、学んだことを自らの生きた知識として身につけることができます。

読む 実践：表現の特徴を読み取ろう

ことばは意思伝達の手段である以上、他者と共有できる表現を持たなければ、その役割を果たせない。伝えたい内容は、共有できる適切な表現を得て、初めて人の心をつかむ。現代の言語表現は、先人が積み重ねてきた工夫を基礎に成り立っているのである。

先人の言語表現から学ぼう

- 孔子が説く「徳」「礼」を重視した政治と、老子の「小国寡民」の考え方を比較して、それぞれの良い点と悪い点をノートに書こう。
- 数人のグループを作って、ノートに書いた内容を共有し、現代人にとって必要な考え方はどちらか話し合おう。
- グループごとに、で出した結論とそう考えた理由を発表しよう。
- 各グループの意見を聞いた上で、孔子・老子のことは、自分から自分が参考にできるもの一つ選ぼう。これら自分学び続けたい事柄について、選んだ

第12章 読みつづかれることば【国語(古文)を語る】……

現代文編

比べ読みの具体的な手順を示して、表現の工夫や小説の構造など、より深く探究することができます。

古典文法の窓 3 …… 用言の活用／音便

《活用・活用形》用言は用いられ方によって語形が変化する。その変化を活用といい、変化した形を活用形という。古語の活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の六種類がある。文中でどの活用形が用いられるかは、原則として下に続く語によって決まる。

古語の已然形（已にそうなっている意）は確定条件を表し、仮定条件を表す場合は未然形を用いた。しかし、時代が下ると已然形は次第に仮定条件を表すようになったため、口語文法では仮定形と呼ばれるようになった。

《語幹・活用語尾》活用するとき、変化しない部分を語幹、変化する部分を活用語尾という。「見る」「得」のように、語幹と活用語尾が融合した動詞もある。

《動詞の活用》動詞は、五十音図の行（ア行〜ワ行）の一つの行の中で変化する。そして、ア段〜オ段のどの段を使って変化するかによって、四段活用・上一段活用・上二段活用・下二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用の九種類に分類される。

*力変とサ変は、上二段と未然形・命令形が異なる。ナ変は、未然形・連用形・終止形・命令形は四段と、連体形・已然形は下二段と一致する。ラ変は、四段と終止形のみが異なる。

種類	語例	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令
四段	思ふ	思	思は	思ひ	思ふ	思ふ	思へ	思へ
上一段	見る	見	見	み	みる	みる	みれ	みよ
上二段	過ぐ	過	過	み	みる	みる	みれ	みよ
下二段	蹴る	蹴	蹴	ぎ	ぐる	ぐる	ぐれ	ぎよ
力変	来	来	来	き	くる	くる	くれ	こよ
サ変	死す	死	死	し	する	する	すれ	せよ
ナ変	死ぬ	死	死	し	ぬる	ぬる	ぬれ	せよ
ラ変	あり	あ	あ	り	る	る	れ	れ

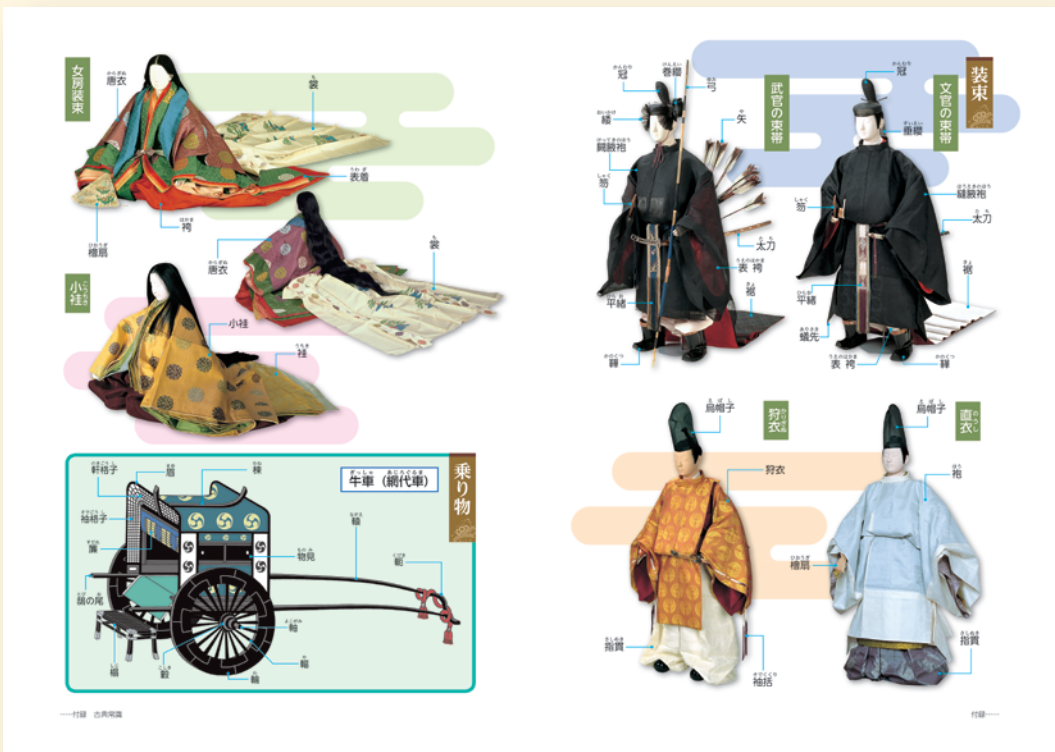
《形容詞の活用》古語の形容詞の活用にはク活用とシク活用の二種類がある。なお、連用形にラ変動詞「あり」が融合して「一かり」となった形を補助活用（カリ活用）という。

種類	語例	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令
ク活用	高し	高	高	く	し	き	けれ	けれ
シク活用	美し	美	美	し	かり	かる	しけれ	かれ

《形容動詞の活用》終止形の活用語尾が「なり」になるものを

◎ 付録

古典常識（装束・調度・暦法）など、古典理解に必要な図版をコンパクトにまとめたミニ便覧。



暦法

月	日	節	月	日	節	月	日	節	月	日	節
1	1	立春	2	1	雨水	3	1	春分	4	1	清明
5	1	立夏	6	1	芒種	7	1	夏至	8	1	小暑
9	1	立秋	10	1	処暑	11	1	秋分	12	1	寒露
1	1	立冬	2	1	小雪	3	1	大雪	4	1	冬至
5	1	立春	6	1	雨水	7	1	春分	8	1	清明

古時刻

古方位

月の見え方

教科書収録教材(現代文)の筆者の大学入試出題状況(一部)

◎『ちくま現代の国語』『現代の国語改訂版』収録教材の筆者の大学入試出典一覧(部)

内田樹

- 「街場の戦場論」—大阪大
- 「下流志向」—岐阜大
- 「ことばとは何か」—麗澤大
- 「寝ながら学べる構造主義」—九州大
- 「日本辺境論」—東海大・大阪大

黒崎政男

- 「哲学者クロサキの哲学超入門」—東洋英和女学院大
- 「哲学者クロサキの哲学する骨董」—大阪市立大・中京大

中屋敷均

- 「科学と非科学 その正体を探る」—北海道大・東京大

中村桃子

- 「女ことば」はつくられる」—岩手大

鷺田清一

- 「老いの空白」—橋大
- 「へひと」の現象学」—東京経済大・明治大
- 「ひとはなぜ服を着るのか」—慶応義塾大
- 「哲学の使い方」—東京都立大・山梨大・日本女子大・成蹊大
- 「しんがりの思想」—早稲田大・鹿児島大・亜細亜大
- 「京都の平熱」—早稲田大
- 「わかりやすいはわかりにくい?」—法政大・信州大・琉球大・明治大・青山学院大・成蹊大・筑波大・中央大
- 「つかふ——使用論ノート」—広島大・早稲田大
- 「文化人類学の思考法」—静岡大

ブレイディみかこ

- 「子どもたちの階級闘争」—大阪府立大
- 「コロナ後の世界を語る」—早稲田大

岩井克人

- 「会社はこれからどうなるのか」—小樽商科大
- 「経済学の宇宙」—埼玉大
- 「戦後七十年 日本の立ち位置は②」—学習院
- 「日本資本主義を「不純」に」—中央大
- 「二十一世紀の資本主義論」—センター試験
- 「経済危機の行方」—九州産業大

国谷裕子

- 「ポスト真実時代のジャーナリズムの役割」—静岡大・熊本大

長田弘

- 「なつかしい時間」—法政大
- 「幸福という一語」—橋大
- 「失われた時代」—京都大
- 「詩人であること」—東京大

伊藤亜紗

- 「目の見えない人は世界をどう見ているのか」—大阪府立大
- 「手の倫理」—北海道大・九州大
- 「豊かな弱さのために」—名古屋大

山田登世子

- 「声の銀河系」—奈良女子大

堀江敏幸

- 「青空の中和のあとで」—東京大
- 「象が踏んでも」—関西学院大
- 「誕生日について」—都立大
- 「回送電車」—法政大

國分功一郎

- 「中動態の世界 意思と責任の考古学」—明治大・慶應義塾大
- 「暇と退屈の倫理学」—慶應義塾大・龍谷大・関西大・同志社大
- 「中動態から考える利他：責任と帰責性」—関西大

宇野重規

- 「〈へ私〉時代のデモクラシー」—椋山女学園大・獨協大
- 「プロジェクト 未来を(待つ)ために」—学習院女大

若林幹夫

- 「増補 地図の想像力」—愛知大
- 「サイバシティは『人を自由にする』か」—北海道大
- 「社会学入門一歩手前」—明治大
- 「ノルタルジとユートピア」—早稲田大

野矢茂樹

- 「大人のための国語ゼミ」—百合女子大
- 「心という難問」—大阪大・三重大・学習院大
- 「哲学の謎」—大阪大
- 「語りえぬものを語る」—上智大・成蹊大・神戸大・福島大
- 「他者の声 実在の声」—成蹊大・関西学院大学
- 「哲学・航海日誌II」—上智大

小坂井敏晶

- 「神の亡霊」—東京大
- 「増補 民族という虚構」—静岡文化芸術大・関西学大・上智大
- 「異邦人のまなざし」—立教大
- 「異文化受容のパラドックス」—防衛大
- 「責任という虚構」—成蹊大・畿央大・滋賀大
- 「責任——責任概念と近代個人主義」—早稲田大

岡真理

- 「文化が違う」とは何を意味するのか」—橋大

大澤真幸

- 「自由という牢獄」—金城学院大・東北大
- 「新世紀のミニニズムへ」—早稲田大

西谷修

- 「離脱と移動」—早稲田大
- 「戦争論」—大阪府立大・法政大
- 「ふるさと、またはソラリスの海」—関西学院大
- 「名づけと所有」—國學院大
- 「記憶の満天」—大妻女子大
- 「夜の鼓動にふれる」—麗澤大
- 「いのちのかたち」—畿央大

◎『ちくま言語文化』『言語文化改訂版』(現代文分野)収録教材の筆者の大学入試出典一覧(一部)

リービ英雄

- 「日本語を書く部屋」—鳥取大・東京大・センター追試
- 「星条旗の間こえない部屋」—山形大

蜂飼 耳

- 「馬の歯」—東京大
- 「崖のおい」—畿央大
- 「蘭の遊戯」—共通テスト

津島祐子

- 「物語る声を探る」—京都大

* 青字は教科書本文と同一箇所、緑字は教科書本文と同一出典 ※「」は書名、「」は文章タイトル

指導資料一覽

評価問題・教科書紙面 PDF・実践用ワークシート・
図解穴埋めワークシート・ループリック評価シートなど、さらに充実しました。

指導資料各種	ちくま現代の国語 (現国 143-901)	現代の国語 改訂版 (現国 143-902)	ちくま言語文化 (言文 143-901)	言語文化 改訂版 (言文 143-902)
指導書『学習指導の研究』(A5判)	5分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版 本体 32,000円 + 税	4分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版 本体 32,000円 + 税	5分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版 本体 35,000円 + 税	4分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版 本体 35,000円 + 税
教科書本文データ	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
訓点付き漢文原文データ	—	—	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
古文品詞分解	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word
漢文書き下し文	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word
古文・漢文現代語訳	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word
〈テスト・評価問題〉基本問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉標準問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉発展問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・プリント〉小テスト問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
漢文編集システム	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word
教科書紙面 PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
課題ノートデータ	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
授業用プリント	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
実践用ワークシート	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
図解穴埋めワークシート	PDF	PDF	—	—
授業用図版素材	PDF	PDF	PDF	PDF
古文・漢文本文スライドデータ	—	—	PowerPoint	PowerPoint
ループリック評価シート	Excel	Excel	Excel	Excel
学習 link 集	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ
PDF 指導書分冊『学習指導の研究』PDF版	PDF	PDF	PDF	PDF
【別売】朗読 CD 3枚組(『ちくま現代の国語』『ちくま言語文化』『言語文化 改訂版』) 本体 8,000円 + 税	対応	—	対応	対応
【別売】指導書分冊『学習指導の研究』PDF ファイル版(『学習指導の研究』内の分売)	CD-ROM1枚 本体 5,000円 + 税	CD-ROM1枚 本体 5,000円 + 税	CD-ROM1枚 本体 6,000円 + 税	CD-ROM1枚 本体 6,000円 + 税

※指導資料関連の一部を破損・紛失した場合は、交換することが可能です。営業部までお問い合わせください。

指導書『学習指導の研究』の内容

全体を次の項目で構成しています。

- 単元の解説
単元のねらい・教材編集の意図・この単元で身につく能力・資質
- 教材のねらい
教材ごとに見開きで指導のポイントを解説
- 学習指導の展開例
教材の指導計画案(配当時間)・指導目標・学習活動・指導上の留意点
- 出典
- 著者(作者)解説
- 要旨(主題)
100字・200字の二種
- 意味段落の要旨
教材の全体を意味段落による表で示し、各段落の内容を要約

- 全体の構成図
教材本文の流れをチャート形式で図解(※現代文教材のみ)
- 叙述と注解
教材本文の語句の解説や、文脈上での叙述の解釈
- 学習のポイント
授業前のトピックの紹介や、各段落の要点を整理(※現代文教材のみ)
- 発問例/脚問の解答
教科書収録の脚問と、発問例・解答。各問には難易度を表示
- 板書例
授業の要所要所で示す板書例
- キーワード
本文理解に重要なキーワードを解説(※現代文教材のみ)

- 作品解説(鑑賞)
 - 参考資料
 - 参考文献
 - 手引きの解答例・指導上の留意点
 - オンライン指導資料
- 古文・漢文教材には、このほかに以下の項目があります。
- 品詞分解 ※古文編
 - 総ルビ付き本文 ※古文編
 - 総ルビ付き訓読(書き下し文) ※漢文編
 - 現代語訳 ※古文編・漢文編

オンライン指導資料

指導書『学習指導の研究』を通して、下記のオンライン指導資料が利用できます。

▶ 詳細は「指導資料パンフレット」P40-43をご覧ください。

漢文編集システム

漢文の問題作成も手軽にできます。

▶ 詳細は「指導資料パンフレット」P41をご覧ください。

授業をサポートする周辺教材のご案内

朗読 CD 指導資料



『ちくま現代の国語』
『ちくま言語文化』
『言語文化 改訂版』共通
朗読 CD 3枚組 本体 8,000円 + 税

準拠課題ノート一覽 学校専売品



現国 143-901

ちくま現代の国語
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/112頁
本体価格 600円 + 税/ISBN978-4-480-91059-2



言文 143-901

ちくま言語文化
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/128頁
本体価格 660円 + 税/ISBN978-4-480-91062-2



現国 143-902

現代の国語 改訂版
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/96頁
本体価格 600円 + 税/ISBN978-4-480-91060-8



言文 143-902

言語文化 改訂版
課題ノート

B5判/別冊解答付/書き込み式/128頁
本体価格 660円 + 税/ISBN978-4-480-91063-9

補助教材集

ちくま文学講読〈初級編〉

監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介
A5判/128頁/本体 560円 + 税/ISBN 978-4-480-91091-2
文学の世界を広げる準教科書。
1年生でもっと文学的文章を生徒に触れさせたい先生方に!
指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付
*指導資料も完備(別売) *学校専売品
A 5判/368頁/本体 7,000円 + 税/ISBN 978-4-480-90584-0

ちくま文学講読〈上級編〉

監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介
A5判/256頁/本体 900円 + 税/ISBN978-4-480-91740-9
文学の世界を深める準教科書。
2・3年生で必須の文学的文章を扱いたい先生方に!
指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付
*指導資料も完備(別売) *学校専売品
A5判/792頁/本体 9,000円 + 税/ISBN 978-4-480-91744-7

ちくま古典購読

監修 青山学院大学 高田祐彦 山形大学 三上英司
定番の古文・漢文教材を精選した準教科書。
2・3年生の2単位古典科目に! **2026年秋刊予定**

指導者用デジタル教科書 指導資料



ちくま現代の国語
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体価格 50,000円 + 税

ちくま現代の国語
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
本体価格 52,000円 + 税
*1ライセンスあたり 10 ID



ちくま言語文化
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体価格 60,000円 + 税

ちくま言語文化
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
本体価格 62,000円 + 税
*1ライセンスあたり 10 ID



現代の国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体価格 50,000円 + 税

現代の国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
本体価格 52,000円 + 税
*1ライセンスあたり 10 ID



言語文化 改訂版
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)
本体価格 60,000円 + 税

言語文化 改訂版
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
本体価格 62,000円 + 税
*1ライセンスあたり 10 ID

デジタル教科書関連書

次の副読本は、筑摩書房版
デジタル教科書に関連づけられています。

詳説 古典文法 改訂版 井島正博 編著 伊藤博美・仲島ひとみ 著
※指導資料・補充問題データ CD-ROM A5判/別冊解答付/176頁/
本体 680円 + 税/ISBN 978-4-480-91737-9 学校専売品

詳説 古典文法 改訂版 準拠 学習ノート
『詳説古典文法 改訂s版』編集委員会 編著 B5判/別冊解答付/64頁/
本体 500円 + 税/ISBN 978-4-480-91092-9 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版 三上英司 編著 石村貴博・大橋賢一・泊 功 著
※評価問題データ CD-ROM A5判/別冊解答付/224頁/
本体 700円 + 税/ISBN 978-4-480-91738-6 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版 準拠 学習ノート 北島大悟 編著
B5判/別冊解答付/48頁/
本体 500円 + 税/ISBN 978-4-480-91093-6 学校専売品

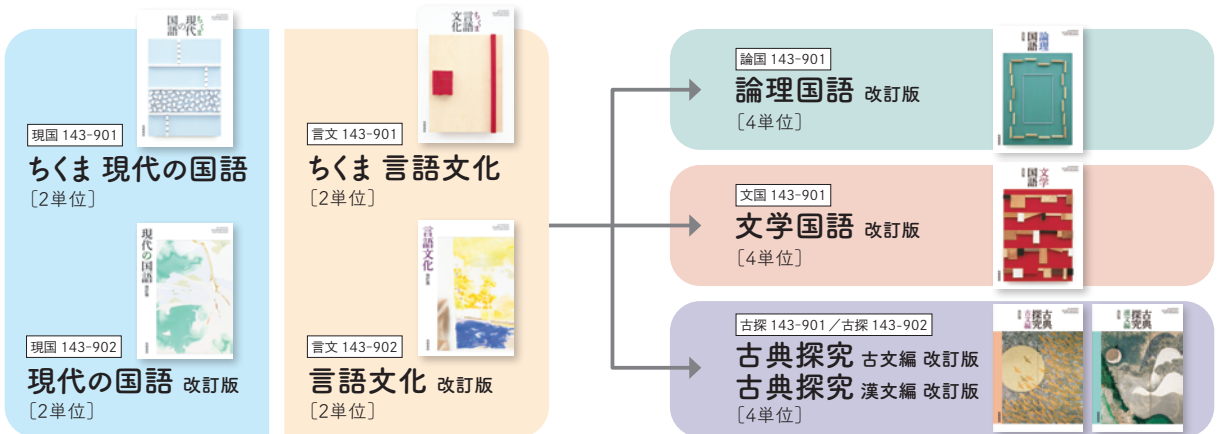
10のグループで覚える 読解 古文単語 343 村田正純・吉田 光 著
※自動問題作成システム(Web版)
B6変型判/256頁/本体 900円 + 税/ISBN 978-4-480-91735-5

筑摩書房版 教科書の展開例

1年次

2年次

3年次



教科書名	教科書調査の観点(発行者 143筑摩)					
	(1)内容		(2)構成・分量	(3)表記・表現および使用上の便宜	(4)その他	
	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③言語活動			
ちくま現代の教科書 (現国 143-901) / 現代の国語改訂版 (現国 143-902)	【ちくま】 (1)言葉の特徴や使い方についての事項について理解を深める評論等の教材や学習の手引きが充実している。 (2)情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考するための評論等の教材や言語活動が充実している。 (3)実社会との関わりを考えるための読書について、教材ごとに著者の主な作品が紹介されており、十分配慮されている。	【ちくま】【改訂版】共通 A 話すこと・聞くことについて 主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	【ちくま】【改訂版】共通 ・教材収録本数が多く、分野も多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「視点」が示され、教材を通して学習の見通しがたつように工夫されている。	【ちくま】【改訂版】共通 ・脚注や地図・図版などが適宜掲げられており学習の便宜が図られている。	【ちくま】 ・意欲的に発掘された新教材が数多く掲載されていて清新な印象を受けた。 ・評論等の読解に役立つコラムがよく整理されている。	
	【改訂版】 (1)言葉の特徴や使い方についての事項について理解を深める評論教材や学習の手引きが充実している。 (2)情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考するための評論教材や言語活動が充実している。 (3)実社会との関わりを考えるための読書について、教材ごとに著者の主な作品が紹介されており、十分配慮されている。	【改訂版】共通 B 書くこと 書くことの資質・能力に資する教材が充実しており、十分配慮されている。	【改訂版】共通 ・教材ごとに「課題」と「言語活動」が示され、資質・能力を身につけるステップが分かりやすい。 ・単元ごとに「実践」が示され、単元を通じて身につける資質・能力が明確である。	【改訂版】共通 ・手引きや脚間によって理解が深められるよう配慮されている。	【改訂版】 ・基礎的な教材から、現代社会に必須のテーマまで数多く掲載されていて、国語力の増進に役立つ。 ・評論の読解に役立つコラムがよく整理されている。	
ちくま言語文化 (言文 143-901) / 言語文化改訂版 (言文 143-902)	【ちくま】【改訂版】共通 (1)言葉の特徴や使い方について理解を深める古文・漢文教材や近代以降の文学的文章と、学習の手引きが充実している。 (2)我が国の言語文化に関する知識・技能が身につく古文・漢文教材や近代以降の文学的文章と、言語活動が充実している。 (3)我が国の言語文化への理解を深める読書について、読書案内が示されており、十分配慮されている。	【ちくま】【改訂版】共通 A 書くこと 書くことの資質・能力に資する教材や実践例が充実しており、十分配慮されている。	【ちくま】【改訂版】共通 主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。 ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「視点」が示され、生徒の学習の見通しがたつように工夫されている。 ・単元ごとに「実践」が示され、単元を通じて身につける資質・能力が明確である。	【ちくま】【改訂版】共通 ・脚注や系図・地図、手引きや時代区分、脚間などが適宜掲げられていて効果的である。 ・特に絵巻物などのカラー図版が時代・風俗を理解する際に有効である。	【ちくま】【改訂版】共通 巻末付録の「古語の理解」「古典常識」授業に役立ち、評価できる。	
	【改訂版】共通 B 読むこと 古文・漢文と、近代以降の文学的文章について理解し、自らのもの見方、感じ方、考え方を深める教材が充実している。	【改訂版】共通 主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。				

「教科書調査の観点」のほか、シラバスなどの資料は、筑摩書房の教科書サイト「ちくまの教科書」からダウンロードできます。
<https://www.chikumashobo.co.jp/kyoukasho/>



ちくましょぼう
筑摩書房

〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3

●ご注文・見本の請求 営業部 / tel. 03(5687)2680
 ●内容に関するお問い合わせ 編集部 / tel. 03(5687)2674